

地名記 東山道

和書門		一六五九	二二四	一	一
類		號	函	架	冊

和書		三五九五	一	一	三
類		號	冊	架	函

内閣文庫		番號	和 16595
		冊數	11 (5)
		函號	176 152



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

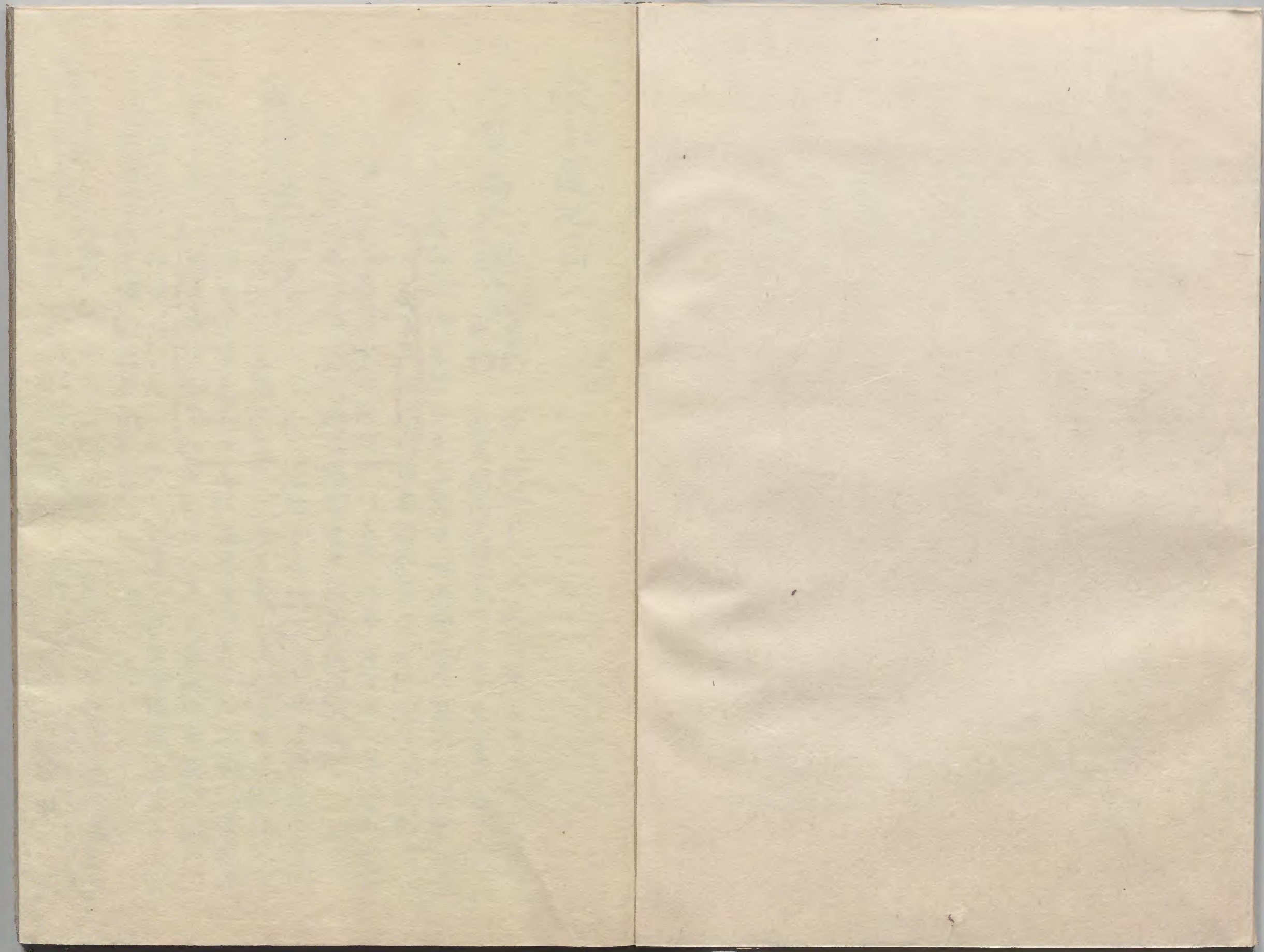
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれぬ箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり





伊勢國射和文庫
竹川彦三郎改
納本一萬卷之內

東山道地名

江邊

志賀高穴穗宮

景行 景行紀五十八年二月幸近江國居志賀三
成務 歲是謂高穴穗宮六十年天皇崩高穴穗宮

○古事記成務段押着帶日子天皇坐道淡海之志賀高穴穗宮治天
下也而後仲哀二年二月幸角鹿笥宮三月至紀伊同德勒津宮
六月幸穴門豐浦宮○按自景行五十八年迄仲哀二年物六十五
年之宮所也昔聞志賀郡崇福寺邊王城山是宮趾也

近江大津宮

天智紀六年三月遷都于近江十年十一月災近江宮十
二月天皇崩于近江宮殯于新宮十一年五月大海人皇

子與大友命有御軍天武二年於飛鳥淨御原治天下也大津宮廢
萬葉一廿六見藤原宮御宇柿本朝臣人乃呂過近江荒都作歌同社
樂浪乃大津宮同社高市連黑人感傷近江舊都作歌樂浪乃國都
美神乃浦佐備而荒有京見者悲乞

橫川真宮

聖武 續日十三廿五天平十二年十二月幸伊勢自業名至
美濃國當伎行宮不破行宮幸近江國坂田郡橫川

明治十二年購求

皇御民百書
竹川政胖書

頓宮次大上頓宮野洲頓宮次永津頓宮次山背國相示郡玉井頓宮次恭仁宮

大上頓宮 大上郡 野洲頓宮 野洲郡 永津頓宮 志賀郡 天武紀 粟津邑 粟津市

石原宮 聖武續日十四丁三天平十四年八月自叙將行幸近江國甲賀郡紫香樂村之時車駕幸石原宮○石部宿又有頓宮村

紫香樂宮 聖武續日十四天平十四年八月自石行幸紫香樂宮九月幸勅松原老八新菰原古誤又勅使村古車駕還久仁

京同年十二月行幸紫香示宮同月車駕還久尔宮天平十五年正月御石原宮樓有琴歌同四月行幸紫香示宮同月車駕還久尔宮

同七月行幸紫香示宮八月幸鴨川十月御紫香示宮開寺地十一月還恭仁宮十二月更造紫香示宮仍停恭仁宮造作天平十六

年閏正月行幸難波宮二月行幸紫香示宮○第十六丁天平十七年自四月不雨又地震甲賀宮邊山火是時甲賀宮空而無人盜賊

先片火亦未滅天皇自恭仁宮行幸平城○甲賀郡紫香示宮廢○紫香示宮跡自水口頓宮村至伊賀小宮之山中在松林中

保良宮 廢帝續日廿二丁天平宝字三年十一月造保良宮同紀廿三丁天平宝字五年十月詔為改作平城宮暫移而御近江

國保良宮同六年五月車駕還平城宮○保良宮所栗本郡石部宿東一里上道右方有花園地号安那村垂仁紀五近江國吾名邑是也

蒲生野行宮 桓武日本後紀五延曆廿二年閏十月幸蒲生野造行宮詔曰近江行宮所于御覽尔山仁麓久野母平之

御意毛於太比弥之御座之故是以御座世留栗太甲賀蒲生三郡乃今年田租免賜云云

逢坂 古事記仲哀段押五神功紀仁慈熊王曳兵稍退武乃宿祢出精兵而追之適遇逢坂以破故号其處曰逢坂○志賀郡相坂山也

相坂關刻 相坂關始置年代諸紀脫按天武紀八年置大江山關同時于日本後紀二延曆十四年八月廢近江國相坂刻文德實

録九十五天安元年四月始置近江國相坂大石龍花等三處之關刻分配國司健兒等鎮守之唯相坂是古昔之旧關也時屬聖運不閉

門鍵出入無禁年代久矣紀朝臣今守上請加二所關而更始置之也○古今集離別歌相坂の関一まさ一き関なるらあかすはか

於君をいじめよと誘ふハ出入無禁之意也

相坂山 万葉六册五天平九年四月大伴坂上郎女越相坂山望見也江海時款本綿疊手向乃山乎今日越而何野也尔廬將子等十五

册五安布左可山 十五册五吾妹兒尔相坂山之皮爲酢寸云云 孝德紀 九丁畿内限北自道江狹狹波合坂山以來云云

手向乃山 万六册五手向乃山 十三册六相坂山丹手向草麻取置而回於道江道乃相坂山丹手向爲吾越往者樂浪乃志我能韓埒云云

○按奈良之手向相坂山手向等各指山之坂合處

樂浪乃國都美神乃浦 万一册七高市黑人感傷道江舊都作歌 ○神功紀 廿九年狹狹浪栗原 ○欽明紀 廿三狹狹波山

○孝德紀 廿道江狹狹波合坂山 ○天武紀 一 廿七會於篠浪 ○古事記 應神 改 佐佐那美屋 ○今昔十一 志賀郡篠波山篠波之長柄山

狹狹波山 欽明紀 廿三 控引船於 狹狹波山 佐散難弥乃志我能大和太 万一册七

佐左浪乃連倉山 万七册五 六帖山 みまの山 合類一 道江高嶋郡 樂浪乃舊都 万三册四 舊都大津宮

狹狹浪栗林 神功紀 十二 忍熊王之軍衆自逢坂走之及于狹狹浪栗林 仲哀 改 四十五 沙沙那美 ○狹々浪 志賀郡栗林山城宇治

郡小栗栖 志我津子 万二册十一 人万吕歌 亦浪之志賀津子

道江志賀團 續日廿七册二 高野天皇天平神護二年七月志賀團大毅 小初位上 建部君伊賀麻呂 ○團之所在 未考

志賀可樂崎 日本後紀 五 延曆廿二年三月幸道江国志賀可樂崎 ○日本後紀 五 延曆廿二年三月幸道江国志賀可樂崎 ○

道淡海国之日枝山 古上 册八 大山咋神亦各山末之大主神此神者坐道淡海国之日枝山 ○式滋賀郡日吉神社

志賀乃大津 万三册二 凡津子 万二册十一 志賀津大津 古津同地

古津 日本後紀 一 延曆道江国滋賀郡古津者先帝旧都今接輦下可追昔 号 称大津 ○海名滋賀郡古市布留知

志賀山寺

万二十五藤原宮。勅穂積皇子遣近江志賀山寺。續日二八丁
文武大室元年八月。近江国志賀山寺封起。庚午年九年滿
三十歲。停止之施物。同紀十三十六聖武天平十二年。幸志賀山寺。○
志賀郡崇福寺。曰号志賀寺。長等山園。城寺一名三井寺。移崇福寺。

梵釈寺

續日卅九丁延曆五年。証
志賀郡始造梵釈寺。未考。

小野臣

孝昭改廿二天押帶日子命之後也。○武滋賀郡小野神社。姓氏
録三。小野妹子家。滋賀郡小野村。為氏。註姓氏録第三。

毛野臣

繼躰紀廿二近江毛野臣。○按小野朝臣同祖。近江毛野。未考。

平浦

比羅拜明紀外丁五年三月。幸近江之平浦。○万一九類聚歌林曰。幸比
良宮。十一冊外。枚浦。○志賀郡也。

比良乃大和太

万一十七同丁皇極天
皇幸近江之平浦。枚乃湖。万三十九
志賀郡。

比良山

日本後紀十二弘仁九年十二月。禁伐近江国滋賀郡比良山村
木。○万九十三赤波之平山風。

真野之浦乃与騰乃繼橋

万四十三吹簧刀自歌。○倭名滋賀郡真野。○姓
氏録五。真野臣居。住志賀郡真野村。庚午年負

真野臣姓

打出

万十三六相坂乎打出。而見者淡海之海。由木
綿花尔浪立渡。○後世為地名。号打出之濱。

栗津園

天武紀十三
栗津市。天武紀十四

吾名邑

垂仁紀三丁近江国吾名邑。淡海臣
○石部守山之近阿那村。後也。○姓氏録无之。

近淡海国造

孝昭改廿二天押帶日子之後也。○国造本紀。以彦坐王三
世孫大陀牟衣別。定賜淡海国造。倭各国府在栗本郡。

阿那臣

孝昭改。押帶日子命之後也。○阿那。垂仁紀三丁天日槍。自菟道
河。沂下北方。入近江国吾名邑。鏡村谷。陶人。則天日槍之從人也。○

姓氏録五。安那公合。○草津
石部守山之中。間有阿那村。

栗太郡

雄略紀廿丁。○式同
倭名栗本。

建部若

景行改理稻依別王之後也。○景行紀卅四十年十月。定武部
○式栗太郡建部神社。在勢田。

阿布美能宇美

仲哀段丁四五〇万三
淡海之海

谷上濱

雄畧紀卅〇栗本郡

瀨田濟

神功紀卅二〇天武紀卅三男依
至瀨田〇倭名栗本郡勢多

栗太郡人磐城村主

天智紀卅
未考

淡海

續日七十五元正養老元年九月天皇行幸美濃國至近江國觀望淡
海云云諸國司詣行在所奏土風歌舞同年免志賀依智二郡田担

近江國磐田

存明紀卅六唐傳一百六口居于近江國磐田
倭名栗本郡治田多〇姓氏錄三治田連

多那伽弥

神功紀卅三武內宿禰歌曰阿布弥能弥存多能和多利珥
豆區苔利多那伽弥須疑氏字珥珥等羅信菟

淡海之八橋

數鬼子〇栗本郡山田天走相併
乃小竹乎不造天而信有得哉戀

河瀨舍人

雄畧段卅二定河瀨舍人〇雄畧紀卅十一年五月栗太郡言
白鷗鷄居于谷上濱因詔置川瀨舍人〇天武紀卅四川瀨舍

人〇姓氏錄廿川瀨造
〇敏達段見字毛理王

近江十二郡

續日廿三三廢帝天平室字四年八月
郡封為淡海公〇武倭名十二郡同

田上山

萬一廿二藤原宮造之時役民之歌十二廿五木綿置田上山之狹
名萬〇神功紀卅三多那伽弥〇雄畧紀卅谷上〇栗本郡田上

甲賀郡紫香樂村

續日十四十四
宮所也倉歷道天武紀卅一倭名甲賀郡
藏部鄉今土山宿也

甲賀寺

續日十五廿天乎十六年十一月太上天皇既幸甲賀寺天乎
十七年五月紫香赤山火不滅甲賀宮空而無人行幸平城後

近江國紫鄉寺寺

續日十廿二聖武天平元年八月紫鄉寺寺入官寺之
例〇十三廿五官外寺是也

刺松原

續日十四十四〇刺松誤字新荻原者紫香赤宮南
按當勅使村南伊賀國新荻野

八口

天武紀卅二果安至八口而視京
按八誤水式甲賀郡水口神社

麻深山

天武紀卅二近江別將田邊小隅越麻深山詣于倉歷
〇麻誤鹿自伊賀至近江謂甲賀越

建部君

景行改丁四景行紀四十二年。欲録日本武尊之功名。定武部。○
姓氏録五。建部公。大上朝臣同祖。日本武尊之後也。○式栗太

郡建部神社

益須寺

持統紀丁廿八。倭名野須郡。寺。廢。

迎淡海之安國造

景行改丁四倭建命娶迎淡海之安國造之祖意富多
牟和氣之女布多屋比賣生子。稻依別王。稻依別王

者。大上君。建部君之祖也。

安稻置

開化改丁廿水穗真若王之後也。○持統紀益須郡。倭名野須郡。

益須郡都賀山

持統紀丁廿八年三月日。七年歲次癸巳。醴泉涌於迎江
國益須郡都賀山。諸疾病人。停宿益須寺而療。未考。

守山

万十一丁。○合野。須郡守山宿存。

石边山

万十一丁。○式野。泷郡。馭路。石边神社。同地乎。

迎淡海之御上祝

開化改丁廿六。迎淡海之御上祝之以伊都玖天之御影神。
○式野。泷郡。御上神社。今鏡宿東在三上社三上出。

淡海之柴野入杵

景行改丁四。未考。

蒲生稻寸

古上村。天津日子根命之後也。○倭名蒲生郡。

蒲生河

推古紀丁廿一。迎江國言。於蒲生河。有物。其形如人。

佐佐貴山君

開化改丁廿志夫美宿祢王之後也。○安康改丁廿佐佐貴山君者大彥命之後
君之祖名。韓倭。○姓氏録二。佐佐貴山君者大彥命之後

也。○考元紀丁一。狹狹城山君合。○式蒲生郡。沙貴神社。今謂觀音寺山也。

大丹總山梓削寺

皇極紀丁廿蘇鹿入鹿臣。造梓削寺。○倭名野泷郡。尔保鄉。○梓削寺。今元於尔保鄉。号尔保湖。

蒲生野

天智紀丁廿七年五月五日。獵於蒲生野。○紫草爲產之地也。

蒲生郡遺迹野

天智紀丁廿九年。今正寺東。七。村。平原。安河。天武紀丁廿三。男依戰于安河濱。○
今正寺東。七。村。平原。安河。万十二丁。相海之安河。○今同

醴泉

持統紀丁廿七年十一月。飲迎江國益須郡醴泉。同於都賀山醴泉。未考。

迎淡海蚊野之別

開化改。表邪本王之後也。○愛智郡。輕野神社。倭名蚊野。

淡海之入多綿之蚊屋野安康改丁雄畧紀丁同顯宗紀丁十一幸于迫江

蚊屋野之東山陵顯宗改父王市迫王之陵於蚊屋野之東山作御陵

神前皇女繼躰紀丁神前郡傳名神崎郡神崎姓氏卅神前連百濟國賈受王之後也

鏡村谷垂仁紀丁天日槍之從人住迫江國鏡村谷陶人也薄生郡今

犬上川濱天武紀丁天上拜神在犬上君景行改罪天上建部息長等

狗上之鳥籠山尔有不知也河萬十一卅三十四廿二淡海路乃鳥籠之山有

戰息長橫河男依等討迫江將秦友足於鳥籠山式馭馬迫江國

淡海之多賀古上卅卅伊邪那使大神者坐淡海之多賀也神代紀一卅丁

宅於日之少宮式犬上郡多何神社

迫江坂田郡推古紀丁額田國國造本紀額田國造姓氏錄額田部

迫江坂田允恭紀丁七年十二月第姬隨母在於迫江坂田

坂田大俣王繼躰段繼躰紀作大越能管原萬七卅三十三卅七息長之

狹野方又カ又五十廿九國造本紀額田萬十三卅七譬喻歌師名立都久麻佐野方

息長水依比賣開化改丁御影神之女息長水依比賣配坐王生丹波

息長田別王景行改丁四卅息長君應神改丁五十九意富富押王

坂田酒人君應神改丁同傳名息長川萬廿尔保押里能於吉奈

山道志 應神改五十九 意富富村王 之後未考

息長橫河 天武紀廿二村田男依等与迫江軍戰息長橫河。續日十三廿五坂田郡橫川頻宮。陵式坂田郡息長墓橫川式。馭家名。

母山 万九十六迫江歌次。疑謂美濃國 奥津嶋山 万十一卅五同行式蒲生郡 奥津嶋神社 奥石神社

於吉奈我河 万廿四九十九仙覺曰坂田郡 穴鄉中有息長川

迫江國鐵穴 續日三五大室三年九月。迫江國鐵穴。倭名坂田郡阿 那鄉。又草津与石部中間有阿那村鐵山。

託馬野 万三十四坂田郡託摩並且妻彦根相併。筑摩式大膳職御厨 之地而筑摩社。御食都神。故祭祀之時。處女等奉鍋。万十

三廿七都又麻。又實四村 玉倉部邑 天武紀廿六景行改玉倉部 迫江國筑摩神從五位下 之清水謂寤居清水

玉倉部之清泉 景行改卅七号謂寤居清水。景行紀十九号其泉曰居醒 泉。今坂田郡醒井宿有泉源。

膽吹山 景行紀十九景行改卅七伊服岐能山之神。式迫江國坂田郡伊 夫伎神社。山下有伊吹村。又美濃國不破郡伊富岐神社。

坂田郡人小竹田史 天智紀廿倭名 蒲生郡篠田鄉

伊香山 万八十五室朝臣金村伊香山作歌。伊香山野也。尔関有茅子十九 者云云。十三廿伊香胡山。倭名迫江國伊香古。式伊香具

神社。姓氏録十一。伊香連。伊香郡者越前 者越前國堰板取越之通路也

迫江國葦浦屯倉 安閑紀廿二年五月。置葦浦屯倉。式伊香郡足前 神社。高嶋郡阿志都弥神社等。葦浦边乎可考。

高嶋之香取乃浦 万七十五按今 水尾崎 万九十六迫江高嶋郡 海津之浦乎 三尾海津併

高嶋之三尾勝野 万七十五丁才繼躰紀一三尾別業 同地。今海津也。

三尾城 天武紀廿三攻三尾城。式高 三尾之別業 繼躰紀行御父彦主人 鳴郡三尾神社。馭馬三尾 王之御在所。今海津

遠江吾跡川

万七ナナ人万呂歌集。九雪降遠江吾跡川揚云云。靈異記下。八條曰。遠江國坂上郡遠江里有一富人。天平神護二年

丙午也云云。今聞有。高嶋郡遠江郷

竹嶋乃阿戸タケシマノアト波者驟鞞云云。高嶋之阿渡河

高嶋之足利湖

万九マンク高嶋之足利湖乎。傍過而塩津管原今香將榜。高嶋郡有吾跡川。淺井郡塩津相併。

塩津管原

万九マンク上同。塩津在湖東。海津在湖西。

淺井田根

天武紀テニ十八。傳名淺井郡田根郷。

塩津山

万三マンサウ金村。塩津山作歌。傳名淺井郡塩津。從塩津北方極取。越至越前國府。万十五マンイフ美故之治。是也。塩津北方越前木目山。

水穗

開化改水穗。真若王水穗五百依比賣。按三尾水穗。通用乎。傳名野洲郡迹保。亦水保村。垂仁改チニ三尾君。或高嶋郡水尾神社。

曳常

續日十三シウ聖武天平十二年十二月。天皇イセ到不破頓宮。常宮所寺及曳常泉。常誤當式。遠江國淺井郡比伎多理神社。昔帳當大清水村今藤川越。

延喜式近江國馭馬

傳名國府在栗本郡。行程上一日。下半日。

勢多馭

三十疋。傳名栗本郡勢多郷。從勢多馭。通山城者。相坂山。關路也。通岡田馭者。奈良路之古道也。通甲賀馭者。鈴鹿山越合東海道也。通藤原馭者。東山道也。

岡田馭

續日五イ山背國相示郡岡田馭。出神名式同。通奈良古道。

甲賀馭

各二十疋。甲賀郡馭家也。當今水口宿。通伊賀國。通鈴鹿合東海道也。

篠原馭

蒲生野洲二郡。塚篠原村存。從勢多通篠原馭者。東山道也。清水馭。傳名大上郡清水郷。今坂田郡大清水村。

存。按清水鳥籠二馭者。美濃國藤川越之古道也。

鳥籠馭

傳名大上郡馭家。万十一マンイフ詠。狗上之鳥籠山。柏原北有トク山。

橫川馭

各十五疋。天武紀テニ廿三。息長橫川。續日十三シウ橫川頓宮。坂田郡也。按橫川穴太二馭者。醒井相原之通道。而與藤川越二道。古今有之也。

穴太馭

五疋。傳名坂田郡阿那馭家。

和尔駅 今存蓋和尔三尾鞆結三駅者至越前

三尾駅 各七足 倭名高嶋郡 **鞆結駅** 九足 倭名高嶋郡

傳馬 栗太足 滋賀 甲賀 野洲 神崎 犬上

坂田 高嶋郡 和尔 鞆結 各五足

追考

いかが崎 古今物名 倭名 古伊加

石山寺 古今秋下於送難春 後古今

犬上の智籠の山なるいさや川 古今大宮 直江犬上郡

いさめの里 六帖初秋才二里 東流のいさめの里の初秋の云云 坂田

石根山 新千載廿賀 天仁元年大嘗 **竹生嶋** 於送秋 ちくぶくま

迹保の海 千載五四 家袖の洞 や尔保の海なるんかりも 人のさるめ

新居郷 新千載廿賀 文保二年大嘗會 直江国新居郷

千枝の村 該古今神祇 正三位家衡 貞應元年 後堀 大嘗會 於 挿葉の千

ちの松原 新後於 賀終 永和元年大嘗會 於 千松原

ちさかの浦 千載賀、平治元年大嘗會風俗、近江国ちさかの浦、君う代の

若松の表 千載賀、又壽二年大嘗會風俗、近江若松森未考

辛崎 古今物名、續於遺冬、葦原や志賀の辛崎水夜、松より外の浦凡も无、
續於送難上、我見ても昔ハ遠く成より共小老木の辛崎の松、

笠田の浦 浪、續後於、折於送冬二〇志賀郡笠田の浮橋と

鏡山 古今大分〇薄 龜山 後於送賀、後冷泉院御時大嘗會、近江国龜山、
生郡鏡谷 龜の置ちる松のみどり小〇近江小元、伊勢龜山、

からゆの系 万七、高嶋の三尾の勝野〇後後撰旅、高嶋のからゆの系、折勅旅、
〇高嶋郡

かまあるつくまの山 六帖山未考、近江筑戸郷を下文小神嶋と云リ〇万十六廿九
かまぬの机の嶋と云、倭名能登国能登郡加嶋と

よか 折勅雜三、折續古今雜上、後深草院横川小行幸
〇志賀郡横川

よんきの表 六帖鷲、よんやゆのきの表、ゆすも招いぬとありそふおを、
〇式高嶋郡與呂伎神社、白鬚の北小由留木、西二村と

よごの浦 金葉冬、衣手小よごの浦風さえさえて二上山小雪降小なり

筑戸江 六帖みくり、筑戸江小生る三、鞍草と

筑摩神 於送冬上、かまある筑戸の神のつくく、か身一つ小ををつと
つる、於送難思、いつも筑戸の祭、くせせん雜面人の鍋の

殺ん、伊物小戯、ゆかをり、筑戸ハ大膳式、御食津木の地なり、
神事小鍋を用ひるハ御食津神、ハたりと真淵翁ハ云リ

雄琴里 金葉賀、大嘗會己日、松風の雄琴の里小通、みそをさす、
代の声ハ少ゆ、前分ハ近江朝日里、或云志賀郡坂本湖也

田上川 續古今冬、衣手の田上川や、氷らみ保の山風さえさす、
〇栗本郡田上山の下流、〇美保ハ倭名野洲郡、迹保郷此所、み保村と

長等山 於送神、示分、く浪のちらの山、ちらの浦も同、折後撰神祇、續千載
雜上〇志賀郡、山城堰をさく浪の長等山と云

浮橋 新松送賀石山小詣おろくろの日人と浮橋と云所小まうりて云
○志賀郡石山寺の望田の浮橋

打出の浜 於送志五、道江なる打出の浜の打出て恨やせまう一人のころを
新千載雜上、大伴黒主、亭子院石山小詣を給る時道江の

国官打出の浜は仕奉、續後撰春、小保の海ハ氷解ら、白浪の打
出の浜小春風を吹○志賀郡

野路の玉川 十載秋上源俊頼、あすもえ野路の玉川萩と名て色なる
浪小月やとくろり○栗本郡野路里可考

野路の篠原 玉葉猿、東へ退りくろり小野路と云所まで、打志くれぬ
思ふ袖めりて行さき遠き御所の篠原○栗本野路の郡内

小野路村 篠原村を
おき長川 天武紀廿二道江坂田郡息長
新勅 小かろの息長川

於保比礼や子比礼乃や末 東越曲大廣○志賀郡比叡山
○山西ハ山城国愛宕郡

老木の森 後於送序、新勅雜上○式蒲生郡與石神社
○老曾と與石かを通

お物の浜 於送神糸、兼盛、くこゝる時もある、な道はなるお物の浜
の天のひつきハ○坂田郡筑戸莊、大膳職御物の浜、此をおふの浦

とも云、今け候より くらぶ山 古今春上、玉葉賀、道江国くらぶの里
○傳名甲賀郡藏部
布

大倉山 於送神示、道江地名中、後於送賀、屏風大倉山、うごきたき大倉
山を立たれハ治まれるよそ久ーかるへき、方七、連倉山も大倉と同

○式伊香郡大掠神社を、 草津 新於送哀傷、草津と云所より船又草
み尾の中山同 ○栗本郡草津

朽木の杣 金葉系上、飛神、身ふれと人もすさめぬ、あまや朽木の杣の谷の
埋木、新勅雜四、鏡倉右大臣、くつ木の杣小ふれる白雪、参議雅

経、道江なるくつ木の杣と流り、
○高嶋郡朽木村あり

栗本の里 金葉系下、道江てふ名ハ高嶋小史ゆれといつらハ、家小ふる本の里
○式傳名栗本郡
久留

真野の浦 万四、後撰、秋下、吹おろす平山、雲やまろくろり真野の浦、人衣
うらかり、今秋、真野の入江○傳名志賀郡真野

真木村

續於送賀嘉祥元年大嘗會於近江国真木村。じきハたる影ハ
多し。真木の村天の宮を幾代ふるとも。式伊勢国鈴鹿
郡真木尾神社。日十六。伊勢国真木山。火。按紫香乐宮所。近き
山。めて近江伊賀伊勢の堺。廣く真木山と云之。其所の村。多し。

あまのぶりの野

古今大方。按
美濃国の地名。

松が崎

於送神亦近江の地名。中。清原元帥。ちとせ。少る松。崎。ハ。む。れ。あ。つ。
田。登。さ。く。基。ふ。ら。あ。る。ら。い。○近江。小。未。考。山城。小。愛。宕。郡。も。松。崎。を。

益原の里

續後於送賀。文保二年大嘗會。近江国益原里。今元
○按筑。广。在。長。浜。の。邊。前。原。里。の。旧。名。益。原。り。

相坂の関の清水

六帖。一。貫。之。夏。衣。立。ま。る。物。を。お。坂。の。関。の。清。水。の。き。く。も
を。哉。日。人。お。坂。の。関。の。清。水。小。ひ。ん。を。て。今。や。ひ。く。ら。ん。市。店
の。約。○相。坂。ハ。山。城。と。近。江。の。堺。之。千。載。振。祝。部。成。仲。近。坂。の。関。ハ。人。も。い。ふ。
ア。ら。り。岩。石。の。水。の。も。ふ。ま。を。て。此。以。ハ。関。廢。り。

栗津野乃波良乃美又留須

栗津之原之。小栗。栖
催馬亦鷹子曲。後撰。為。四。栗津の。木。林。の。あ。は。す。い。も。
○志。賀。郡。栗。津。山。城。宇。治。郡。栗。栖。相。併。

栗津野

後於送春上。栗津野。新千載賀。建長元年。屏風画也。
栗津野の。雪。小。若。な。つ。心。宿。○志。賀。郡。

朝日の里

金葉賀。是。り。を。き。豊。の。あ。り。小。近。江。なる。朝。日。の。里。ハ。光。り。さ。く。そ。ふ。
玉。葉。賀。元。慶。九。年。大。嘗。會。近。江。国。近。江。なる。朝。日。の。里。ハ。光。り。さ。く。そ。ふ。
世。の。さ。り。も。光。り。さ。く。そ。ふ。
○倭。名。淺。井。郡。朝。日。比。佐。

いやさ山

於送神亦。兼。盛。近。江。なる。いや。さ。山。の。林。を。て。君。り。千。代。を。ハ。祈。か。さ。さ。も。
○或。云。坂。田。郡。弥。高。山。○備。中。国。同。名。と。

朝妻

新録。古。今。亥。四。迄。て。夜。ハ。近。江。の。朝。妻。小。君。も。な。ま。さ。と。云。ハ。誠。り。
○倭。名。坂。田。郡。朝。妻。按。坂。筑。广。小。併。て。彦。根。の。北。より。

小園

千載神祇。久。壽。二。年。大。嘗。會。近。江。国。本。綿。園。神。り。く。る。豊。の。あ。り。り。小。
小。園。の。日。々。か。つ。そ。を。な。ま。さ。り。る。未。考。保。良。都。趾。栗。本。郡。石。部。の。花園。り。

三井寺

續於送雜秋。三井寺。を。月。の。名。を。呼。ぶ。野。須。郡。及。上。の。山。の。秋。風。小。さ。く。浪。遠。く。出。る。
月。氣。○志。賀。郡。三。井。寺。ハ。天。智。天。皇。の。宮。趾。と。き。く。天。智。紀。小。山。御。井。と。云。

御井津比賣

開化改竊。近。江。息。長。水。依。比。賣。生。子。御。井。津。比。賣。○御。井。ハ。谷。川。士。借。曰。
天。智。紀。五。十。三。年。三。月。於。山。御。井。傍。敷。諸。神。座。と。云。地。三。井。寺。と。成。字。云。

みどの中山

於志神亦名、さかみやみどの中山、拙立て造り重よらよのちりり、
万七、六帖山の嶋郡水尾、なごり山同、前文大倉山と出

みくららの山

六帖山、万七、五さく浪の連倉山、
高嶋郡三尾、中山同、前文大倉山、
みくららの山、
新勅賀、寛治元年、悠紀方、近江
国、みくららの山、未考

志賀山越

古今春下、近江、志賀寺、錦織村より山を登、貫之黒主の墓所を通り、山城の
北、白川より出る山道、山城の山中村、小山の井を、古今別、志賀山越の石井と云り、

白菅の真野の萩原

金葉秋、白菅の真野の萩原、あなうら折つる袖そ人なごり、
於志すけのまゆみ萩原、
於志すけのまゆみ萩原、
於志すけのまゆみ萩原、

於志すけのまゆみ萩原、
於志すけのまゆみ萩原、

志賀らきの峯

六帖霞、峯、甲賀郡、志賀らきの宮所、
勅使村の山林中より

志賀の花園

於志於志雜春、故郷花、又、すまゝぬ世々の昔もあつて、表とを思ふ、
志賀の花園、於志於志雜春、下、定家、さく浪や志賀の花園、云々、志賀郡、

志賀高穴穗宮、務、大津宮、智等の花園と云ゆ、又、栗本郡石部宿より、
保良都、齋、於志於志其所、小も花園村あり

ひえの山

古今春下、於志後撰神祇、大ひえ、
をひえの山、山城と近江の堺

日吉社

後於志神祇、後三條院御時始て日吉
社、小行幸、式志賀郡日吉神社

平の高ね

新於古今春下、源頼政、近江、浪や真野の浪、小詔とめて平の高ねの花を
又、る式、〇万、比良、志賀郡、国書小註

もろ山

古今秋下、貫之、白露もあつてもい、くもる山、下、兼、不、残、名、付、より、新於古今賀、
永承元年、大常會、序、凡、近江、国、もろ山を、皇を、じき、かき、小もり山の山、な

り、山、かつ、せり、
野洲郡守山宿と

関寺

後撰雜二、敏行、明長、近江の関寺、小もり、は、る、云々、
〇志賀、小相坂山の関寺と

諸神郷

于我神祇、元暦元年、大常會、近江、国、諸神郷を、もろ山の心、小今を、叶
り、君を、や、よ、とい、の、誠、ハ、〇未考、若くハ、伊香郡大社郷を、云り

瀬田の長橋

新古今雜中、匡房、堀川、百首の時、植の板も、苔、あ、す、汁、た、り、ふ、り、
後代、理、め、く、ん、せた、の、ち、橋、〇栗本郡

志賀つの海士

万二、人、万、呂、赤浪の志賀は、の、より、於志後撰、志二、又、る、あ、た、き、志
賀は、の、あ、ま、の、い、さ、り、船、〇志賀郡の湖水、志賀の海、ハ、筑前と

岡田の系

於志後於志春上、惠慶法師、以、江、なる、尾田の系、小、あ、な、つ、む、た、り、と、云、
式、武、馬、小、近江、国、岡田、武、を、て、あ、な、よ、通、又、於志日、五、和、銅、四年、山城、相、系

郡岡田、武、を、て、伊賀、小、通、云、考

美濃

泳宮

景行紀行四年二月幸美濃居于泳宮泳宮此云福同十一月自美濃還則更都纏向○万十三三野國高北之八十一隣之宮

○泳宮趾在東美濃可兒郡久久里村同所有御池之跡註

野上行宮

天武紀行元年六月行宮興於野上而居焉○万二廿四人万呂詠和射見我原乃行宮○不破郡野上村也

不破宮

天武紀行○按不破郡關ヶ原之南端在不破關趾○不破宮者野上行宮也自關至野上之程凡三十町計

續日十三廿五聖武天平十二年十二月幸不破郡不破行宮次到江國坂田郡橫川頓宮○万六廿六不破行宮大伴宿祢家持作歌關無者還尔谷藻打行而妹之手枕卷手宿益字

當春行宮

續日七廿七元正養元元年十一月詔曰今年九月到美濃國不破行宮留連數日覽當春郡多度山美泉○同八廿八

二年二月行幸美濃國醴泉同十三廿九聖武天平十二年十二月幸伊勢國自來名至美濃國當伎郡○万六卅一美濃國多藝行宮大伴

宿祢東人作歌。得。人之言來。老人之變。卷云水曾。各不負。瀧之瀨。

當耆郡多度山美泉

續日七十五元正養老元年九月。幸多度山美泉。到。不破行宮。同十一月。改靈龜三年。為養老元年。同。

十二月。美濃國之春。曉。挹醴泉。而貢京都。為醴酒也。同十六。不破當耆。方縣。務美。免田租。伊勢國桑名郡。

當藝野

景行改。路。次。多藝野。杖衝坂尾津前併。美濃國多藝郡之野也。今有原野。

多藝臣

孝昭段。天押日子命之後也。○姓氏錄无之。倭名多藝郡。

田跡河之瀧乃野

万六。天平十二年十月。聖武天皇。行幸於伊勢國之。次。美濃國多藝行宮。大伴宿祢家持作歌。田跡河之瀧。

乎清美香。從古。宮仕。兼多藝乃野之上。尔。於美濃者。養老瀧也。於伊勢者。桑名郡多度神社之瀧也。各有原野。二所宮跡。未考。

不破

天武紀元年六月。村國男依發美濃師三千人。塞不破道。○鈴鹿關同時。○軍防令。三關。義解曰。伊勢。鈴鹿。美濃。不破。越。

前。愛發。○万廿。防人歌。不破乃世伎。久江。互和波。由云云。○續日。四十。延曆八年七月。勅。伊勢美濃越前等國曰。其三国之關。一。

切。停廢。所有兵器。糧糈。運。於國府。○自天武元年。延曆八年。中間。百八十年也。○文實。一。嘉祥三年四月。御存會。固。近江國關。伊。

勢。國。關。美濃。國。關。○今見。不破。郡。關。原。宿。南。不破。村。大。關。坂。是。關。趾。也。關。川。上。重。餘。藤。村。詠。關。藤。川。

不破山越

万二。八。隅。知之。吾大王乃。所聞見。為。背友。乃。國之。真木。立。不破山越。而。狛。劍。和射見我原。乃。行宮。尔。安。母。理。座。

○不破山者。垂井。与。關。ヶ。原。之。中。間。有。山。路。○和射見我原者。野上。村。中。野上。行宮。所。之。南。因。系。宿。子。

和射見我原

万二。右。同。十一。種。射見野。○天武紀元年。和。野。上。高市。皇子。自。和。野。上。與。野。上。之。中。間。也。

不破道

天武紀元年六月。行塞。不破道。遣高市皇子於不破。令監軍事。○關ヶ原。宿。南。大。關。坂。是。不破。關。趾。而。礎。石。少。々。存。

野上

天武紀元年六月。天皇入。不破。郡。家。到。野上。○野上。行宮。同。地。○倭名。不破。郡。野上。鄉。今。野上。村。存。

美濃國藍見河之河上喪山古上丁四十二神代紀二丁○口決曰厚見郡按不破郡府中村藍川鄉有喪山

美濃國之造本巢國造開化改丁七神大根王之後也景行改丁三合景行紀丁四美濃國造神骨合○國造本紀彦坐王之

後定賜三野前國造○按彦坐王之後神大根王諸紀合○本巢者西美濃而所謂三野前國也倭名此郡內有美濃鄉也神大根王亦名八爪入彦倭名可兒郡矢集鄉神大根者神坂而各東美濃也別有美濃後國當信濃國伊奈郡○國造本紀本巢國号關文○續日廿九九神護景雲二年六月以美濃直玉融為本國國造

長幡部連開化改神大根王之後也倭名安八郡服織長友併

三野之別垂仁改丁大津日子命之後也倭名本巢郡凶美濃鄉是乎

三野之字泥須和氣景行改丁大碓命娶三野國造之祖神大根王之女兄比賣生子押黑之兄日子王此者三野之

字泥須和氣之祖也○字泥古今集大歌所歌字泥乃野當各務郡鷓沼也

牟宜都君景行改丁大碓命之子押黑日子王此者牟宜都君等之祖也○倭名武藝郡○上宮記曰牟宜都國造伊自牟良君

美濃國彦彦景行紀丁二十五十年十月日本武尊擊熊襲時美濃國有善射者曰彦彦公遣葛城人宮戶彦喚彦彦公○按天孫

本紀尾張彦彦者葛城之高尾張邑人也別住于美濃乎景行以前美濃尾張未分故記美濃國彦彦公

安八磨郡湯沐令天武紀丁三合訓字奈加志○按湯應飛驒國下留止留之湯天武朝廷美濃飛驒未分國

美濃國礪杵郡天武紀五年四月倭名土岐

安八郡人國造千代續日四丁元明和銅元年三月

美濃守兼尾張守續日七丁元正靈龜元年三月○按美濃尾張舊一國也分置時代未考○望朝臣麻呂任國守始見

美濃國守管尾張參河信濃 續日八十九元正養老二年七月

鶉沼川 續日卅三高野天皇神護景雲三年九月尾張與美濃國堺有鶉沼川今年大水其流改道○木曾川飛驒川合南流鶉沼宿

美濃國管田駅 續日卅四光仁寶龜七年十月管田駅與飛驒國大野郡○管田倭名武藝郡管田鄉 伴右駅相去七十四里其中間置一駅名曰下留○下留

上留出湯之地屬飛驒國益田郡

柴原勝 續日卅一光仁寶龜二年五月柴原勝淨足賜姓宿祢卅六 禰光仁天應元年七月柴原勝子公言先祖伴賀都臣神功皇

后御世使於百濟娶彼土女生一男名曰本大臣大臣遂尋本系歸於聖朝時賜美濃國不破郡柴原地因居焉氏改賜栗原連○今有

本巢郡丹蓮田郡柴原鄉○倭 栗原連 續日卅一柴原氏改為 名不破郡栗原在垂井之南方

席田郡 續日六元明靈龜元年七月尾張國席田君迹迫及新羅人 七十四家貫于美濃國始建席田郡○迹迫地名負人名景行

紀尾張乳迫之稻置是也 今於尾張國元乳迫

與礪山三野山 万十三野按與礪山者木曾河源也今信濃國筑摩郡有與曾山村小吉曾山村古昔美濃國也三代寶錄

元慶三年見吉蘇小吉蘇 註國号考及國者

岐蘇山道 續日二十六大宝二年十二月始開同六十六元明和銅六年 七月美濃信濃二國堺徑道險阻往還艱難仍通吉蘇路

信濃坂 景行紀十八四十年十月日本武尊擊東夷自碓日嶺入信濃度信濃坂出美濃○景行改卅六言向村野之坂神○信濃坂者万

廿卅五如美乃美佐賀是也於美濃國惠那郡者謂惠那ヶ嶽俗云ナカタケ也古道自曾能原蒜壑越神之御坂出坂本駅其古道三十里○百五此道巖嶮而瘳和銅以後通岐蘇路

八爪入日子 閑化改十六神大根王示名八爪入日子王者三野國造云云祖也○景行紀四美濃國造神骨○倭名可兒郡知集鄉○此王之族

者三野後國 伊奈郡 國造也

延喜式八美濃國馭馬

倭名國府在不破郡
行程上四日下二日

不破馭

二足。○不破郡馭家當關ヶ原宿以下馭家今不審廢牧令曰
凡諸道須置馭者每三十里九百五置一馭又曰大路脚

二十足。中路東山十足。小路五足。○傳馬每郡各五皆用官馬
○二足誤字中路十足例須有增減

大野馭

大野郡馭家
今大野村存
方縣馭方縣郡馭家各務馭各六足。各務

可兒馭

八足。○可兒郡馭家
郡堰有變未考立坂馭未考大井馭各十足。可兒

坂本馭

三十足。○惠奈郡坂本馭從坂本通信濃國伊奈郡阿智馭是
御坂越之古道也。右道廢而通馬古來宿本曾路坂本村僅存

續日本後紀明和五年惠奈郡大井馭家人馬共疲坂本馭子悉逃云云

武義馭

武藝郡馭家續日卅四宝龜七年十月菅田馭
○倭名武藝郡菅田鄉是也通飛驒國益田郡

加茂馭

各四足。○加茂郡馭家加茂野村存
武義加茂二馭通飛驒國

傳馬

不破 方縣 各務 可兒 武義郡 各四

大野郡

足三 土岐郡 足五 惠奈郡 足十

追考

神大根王

亦名ハツメイリビコ 八爪入日子 開化改廿六神大根王亦名ハツメイリビコ
三野國造本巢國造長幡部連之祖と云

景行紀四美濃國造名神骨とあり。○神大根ハ美野と信濃の間
なる神坂を負根ハ嶺之稱言ハあり。此山ハ景行紀廿六信濃
坂景行改卅六科野之坂神方十四廿六此可牟能祢同廿加美乃美佐
賀と讀リ信濃記小美濃國惠奈郡坂本鄉御坂惠奈ヶ嶽俗云曰

ナカメケ。山東ハ信濃国伊奈郡曾乃原^{ヒルカミ}阿智^{アチ}驛^イ通。此山中の古道凡三十里と云。〇八^ハ爪^{ツメ}ハ倭名美濃国可兒郡矢集郷を負。住居の地。此王の後ハ地名を人の名小負。かくて惠奈郡の意ハ湯奈^ナ愛^イ比^ヒ賣^ウ同意。下留の出湯の流を惠奈と負。工の言轉て惠と云ハ国^{クニ}威^イ之。伊奈郡も湯奈の意。東間の出湯を伊奈と負。伊奈の地南北行程三日半。筑摩郡塚^{ツカ}至。国造本紀ハ三野^{サノ}後国とある地。故ハ爪入日子王の後ハ三野^{サノ}後国の国造。伊奈郡の地名を人の名小負。此ハ伊奈郡^{イナ}註。国^{クニ}置^イ註。新千載賀。新續古今賀。道田のいつ貫川の川水と住。小田霍といつ。進久^{シムキウ}き^キの倭名美濃国席田^{セキデン}呂^ロ太^{タイ}の奴支加波ハ席田郡の川上小越前国ぬくと村^{ムラ}を^シクミ^{クミ}の約^{ヤク}キ^キた^タれ^レバ^バぬ^ヌき^キ川^{カハ}と云^トカ^カ。谷汲^{タニヒキ}。千載新教。美濃の谷汲^{タニヒキ}。

席田のいつ貫川

催馬示席田。年之呂太乃伊川。奴支加波也。須牟門留乃云云。新勅賀。むら田小群居。田霍の云云。

うぬの野

古今大分。あつと。あつと。朝立く。ら。うぬの野。小田霍を。鳴。なる。明。ぬ。は。夜。ハ。美濃国賀茂郡阿夫志那神社。

の地を。あつと。と云。一。つ。り。景行改。小三野之宇。泥須。今。の。各務郡。鷓沼。宿等。の。旧。名。ハ。宇。泥。の。地。を。て。近江の。お。小。ハ。あ。つ。と。ド。

梓山

六帖。山。梓の。山。と云。續日二。武。大宝二年三月。信濃国獻梓弓。信濃と美濃国。塚。接。故。今。梓山ハ。美濃ノ。属。曾。丹。集。梓山。み。此。の。中。に。絶。て。り。身。小。秋。の。く。ると。知。小。き。千。載。猿。能。因。法。師。津。の。国。より。美。濃。国。小。下。る。り。て。梓山。を。て。宮。本。引。梓。の。山。を。か。き。分。て。難。波。の。浦。を。遠。さ。り。ぬ。る。梓川ハ。信。濃。を。る。梓。木。ハ。小。木。を。て。ぬ。り。そ。よ。用。山。里。人。ハ。弓。の。木。と。云。

美濃国関の谷川

古今大分。み。此。の。心。関。の。谷。川。絶。ず。して。君。は。仕。へ。ん。若。代。ま。て。小。後。松。送。雜。上。若。系。の。兼。仕。へ。て。世。々。

の流。北。を。思。ふ。ふ。も。身。小。杉。心。関。の。谷。川。〇。若。川。ハ。不破郡。関。系。より。一。里。半。若。川。宿。を。道。江。長。湊。へ。出。

み濃のお山

六帖。山。お。山。ハ。み。の。お。山。の。一。つ。松。ち。き。り。し。ん。今。も。み。濃。の。お。山。ハ。み。の。お。山。の。山。を。云。なる。一。

み濃の中山

後。古。今。大。分。四。定。家。後。松。送。雜。秋。不破。の。関。屋。小。出。付。て。は。る。る。お。小。都。を。バ。を。な。さ。と。汁。海。り。又。て。関。越。が。ぬ。る。み。濃。の。

中山のみたのお山みたの中山ハ
不破郡垂井の南宮の山を指

音墓 アツカ 新續古今振、堪覚法師、東より上りくる時あふたかと言所小宿。美濃国垂井宿東音墓宿、今ハ无。

垂井 泚花雜下、若原隆經朝臣、美濃守ありて下りくる時、垂井と云所ありて、昔より垂井の水ハ替りぬと云つる、此の形を年をへりける。不破郡垂井宿。

みのり中山同地

洲の股 後於送旅、能因法師、洲の股と云所より信濃の御坂をえり、洲の股ハ本巢郡、今洲股宿と云。

泳宮の池 景行紀、行居子泳宮、鯉魚、浴池、朝夕臨視、而戲遊、時、茅媛欲見、其鯉魚遊、而密來臨池、天皇則留而通之、可兒郡、久々里村、有宮趾池跡、夫本集小、いともぬ、久々里の宮の池小す、いともぬ、いともぬ、いともぬ。

高山北二里、筑紫山、十若寺、有宮趾池跡、夫本集小、いともぬ、久々里の宮の池小す、いともぬ、いともぬ、いともぬ。

飛驒國 仁德紀、廿三年、飛驒國有、一人曰宿儺、國造本紀、大八、埒命、定賜、雙陀國造、而後飛驒國号无所見、天武紀、元年、六月、紀美濃國湯沐、令者、應飛驒國、出湯之令也、持統紀、二、新羅沙門行、心与皇子、大津謀反、徙飛驒國、伽藍者、国号再定、而表之、字、續日、二、廿三年、文武、大室二年、三月、飛驒國獻神馬、同八、廿三年、元正、養老五年、八月、以飛驒、隸美濃、按察使、飛驒訓義、日宮工字。

飛驒國造 續日十七、廿六年、天平、感宝元年、閏五月、飛驒國大野郡、大領、飛驒國造、高市、麻呂、授、外從五位下、同廿七、延曆元年、十二月、飛驒國人、從七位上、飛驒國造、祖門、任國造。

大野郡 年十二月、飛驒國人、從七位上、飛驒國造、祖門、任國造。

斐太匹 万十一、斐太匹、云云、物者不念、斐太人、乃、打墨繩之、直一道二、○賊、役、令曰、斐陀國、每里、點、匹、丁。

飛驒國荒城郡人第日 持統紀、廿九年、倭名、荒城郡。

伴有馭 續日、廿四、廿一年、光仁、宝龜七年、十月、美濃國、菅田馭、与飛驒國、大野郡、伴有馭、相去七十四里、巖谷、險深、行程、殊遠、其中間、置一

下留 馭名曰

延喜式飛驒国馭馬

倭名国府在大野郡 行程上十四日下七日

下留馭

益田郡。續日廿四註前

上留馭

益田郡 先所見

石浦馭

各五足。到大野郡 府自国塚追高山今

傳馬 大野郡 五足

未考

道十六里計

追考

飛馭上

六帖国紀の女王ひだりふりあむりしきりもあむりしきりといつ

下留

續日廿四註前。下留地ハ美濃国なるを分て益田郡又隸出湯の流ハ美濃国惠奈郡小て木名川よ入

信濃

科野國之刻羽海

古事記上丁四十四建御名方神鎮座。式評訪郡南方乃美神社座。本紀須羽国。湖俗語云周六十七里

科野國造

神武改丁神八井耳命者科野国造云云祖也。本紀曰科野国造神八井耳命孫建五百建命。倭名信濃乃奈府在筑摩

科野之坂神

景行改丁丁六倭建命自東国越科野国乃言向科野之坂神。景行紀丁十八日本武尊自碓日嶺進入信濃。途徑大山既遠

于峯山神化白鹿云云。先是度信濃坂者多得神氣以瘳卧。推古紀丁廿八年五月有蠅聚集其凝累十丈之海虛以越信濃坂。吞明紀丁十四科野国言蠅羣向西飛踰巨坂。謂天武紀二十丁按科野篠野伊奈郡之野也。坂神蒜隴村之社乎。信濃坂者万十四丁可牟能祢是神坂也。神之御坂也。自曾之原蒜神村西方通美野国惠奈郡坂本馭。古道廢矣。大宝二年始開岐蘇山道

信濃國直丁

雄略紀丁廿一年五月信濃国直丁外武藏国直丁侍宿。武烈紀丁信濃国男丁作城像。仍曰城上也

信濃行宮

天武紀二十四丁十四年十月於信濃令造行宮。蓋擬幸東間温湯。歟。今於伊奈郡有宮所村而筑摩湯相連

東間溫湯 天武紀二 孺 ○倭名筑摩萬豆加 ○溫湯所在山家鄉廢而今

須波水內 持統紀 五年八月祭信濃須波水內等神 ○倭名諏訪須波

信濃國秋梓弓 續日 二廿大室二年三月信濃國秋梓弓一千二十張

元太宰府 ○万二廿信濃乃真弓 ○六帖社梓山曾丹集好忠詠梓山美濃乃中道者屬美濃也自往古美濃信濃國塚接

諏方國 續日 八廿元正養老五年六月割信濃國始置諏方國同年八月以諏方飛驒隸美濃按察使同紀十一行聖武天平三年三月為廢諏訪國并信濃國同年五月巨勢朝臣大兄為信濃守而後式倭名為諏訪郡 ○諏方伊奈南北行程三日半餘

水內郡 續日 廿二光仁室龜三年正月信濃國水內郡人女孺云云賜姓連

信濃道 万十四 廿一信濃國歌信濃道者伊麻能波里美知可里婆祢尔安思布麻之牟奈久都波氣和我世 ○謂木曾之壑道乎

中麻奈 万十四 廿一信濃記曰波尔思奈 万十四 廿一廿五埴科郡

知具麻能河 万十四 廿一倭名筑摩郡河源駒ヶ嶽之流号犀河北流入越後國新瀉海云云限川

欲良能夜麻 万十四 廿一安豆左由美欲良能夜麻边能之方可久尔伊毛吕乎多氏天左祢度波良布母 ○信濃記佐久郡與良

字良野乃夜麻 万十四 廿一郡浦野馱 ○信濃記同良野乃夜麻云云 ○式小縣

小縣郡 万十四 廿一倭名信濃奈流須我能安良野 万十四 廿一伊奈郡菅野村之原野

可牟能祢坂神 ○此山自阿智馱為乃原蒜神古道三十里通坂本馱

賀美乃美佐賀 万十四 廿一知波夜布留賀美乃美佐賀尔怒佐麻都里伊波

接古道馱路通伊奈郡伊奈回美濃後國也開化改人名應考知

延喜式信濃国馭馬

傳各國府在筑摩郡
行程上廿一日下十日

阿知馭

三十疋

○阿知在伊奈郡馭已廢而其名存者阿智川阿智原村也後世置會地闌今号駒場也古道自美濃国惠奈郡坂本馭越神之御坂而經伊奈郡箇原蒜窪伏屋里到阿知馭也其古道三十里今量道廢而通吉蘇山道○景行紀云日本武尊食於山中今有蒜窪村爰王忽失道不知所出時白狗自來有導至之狀今白狼白犬有此山也○三十疋岐路有二通南北

育良馭

馭廢伊奈郡飯田城南阿智川也号伊賀良莊東鑑見伊賀良莊尊勝寺額

賢錐馭

伊奈郡片桐宿存

宮田馭

伊奈郡宮田宿存

深沢馭

馭廢諏訪郡三沢村存○按自深沢通東間之府

覺志馭

各十疋○馭廢筑摩郡堅石村存通東間之府

錦織馭

馭廢信濃記曰傳名筑摩郡錦服古野鄉其地不祥○按自覺志馭東方錦織浦野長倉通上野国之山道也

浦野馭

各十五疋○古道變馭廢信濃記曰小縣郡山谷之名有浦野五十十四州可能古呂等宿受屋奈里奈牟波太須酒伎字良野

乃夜麻尔都久可多與留母○自浦野通長倉到上野国也
巨理清水二馭通北郡之岐路也

巨理馭

清水馭各一疋○信濃記曰筑摩郡東間国府也水村多故河水之西岸有清水巨理馭廢而地名僅存

長倉馭

十五疋○馭廢今當踏挂宿自長倉通上野国坂本馭式佐久郡長倉神社長倉牧同地長倉議續日六廿和銅七年四月諸国造倉云云也倉也謂大倉也

麻績馭

傳名伊奈郡麻績美乎鄉乎信濃記曰馭无已流亡

巨理馭

信濃記曰今无流亡按木曾之岐路有風越清内路置四馭乎

多古馭

沼辺馭各五疋○信濃記曰多古沼辺二馭今无所考按木曾山道之宿馭乎難考

傳馬

伊奈郡足 諏波 筑摩 小縣 佐久郡 各五疋

式^{四十八}左馬寮御牧、信濃国牧十六

東鑑所記廿八牧也。信濃人吉沢好謙撰。信濃国地名記引用于此書。

山鹿牧 諏方郡

塩原牧 諏方郡

岡屋牧 諏方郡

宮處牧 伊奈郡

桐原牧 式作殖原誤 筑戸郡

大野牧 伊奈郡

平井手牧 伊奈郡 牧村

笠原牧 伊奈郡 六帖小笠原

高位牧 高井郡

新治牧 小縣郡

大室牧 高井郡

緒鹿牧 佐久郡

萩倉牧 佐久郡

塩野牧 佐久郡

長倉牧 佐久郡

望月牧 佐久郡

追考

伊理泥王

開化改、神大根王之弟、伊理泥王。伊理泥、伊良泥、秀嶺の意、大根、同。此王の女を母泥能阿治佐波毘賣と云生

子迦迹采雷王、皆伊奈郡の地名也。

母泥能阿治佐波毘賣

母泥、八面嶺、大根、小同、阿治、佐波、伊奈郡可牟能祢の下なる蒜窪村より東方へ流る、

水を阿智川と云、阿智、馱ハ瘞て阿智神社ハ蒜窪村小を阿智川ハ阿智原村より天瀧河小流入、此川を各小負

迦迹采雷王

此王も母と共に伊奈郡居地の名を以て神戸カニヘ音イカの地名と負、神戸ハ阿智の神戸より蒜窪村より雷ハ音津持

音ハ式馱馬小音良馱を瘞て今ハ音良莊小阿智神社あり、かくて伊奈郡ハ美濃後国より前文三野国造神大根王、弟伊理泥王、其末々ハ伊奈郡の地名を負て、美濃後国の国造たりん

建御名方神

古事記上、四十三、大国主神白云、我子建御名方神とあれ也、母神ハ脱て、旧事記小、大国主神娶高志、沼河姫生一男

兒建御名方神坐信濃国諏方郡神社と云々○古事記上丁四十四建御名方神逃去故追往而迫到科野国之列羽海○式諏訪郡南方美神社二座○名義出雲国嶋根郡美保神社註ハ御保須々美命と云風土記小出信濃註ハ御名方神と云信濃小て諏訪郡を南郡と云式小南方と書ハ南縣の意也出雲国美保註宣長曰諏訪小風祝と云るハ伊勢風土記小神武天皇の御代小伊勢津彦大風を起して信濃国へ移とあるハ伊勢津彦註ハ建御名方神とて始ハ伊勢国へ逃去しうと云リ

穂や野

續古今秋下文永二年九月十三夜野鹿の野夜宮なるハ屋ふくろ屋のめくりの一村小註里ある秋のみさ山○後小穂屋野を地名とす始ハ諏訪神社の宮野の穂屋と云さ山註○袖中抄信野なるハやのすきも風ふけハそよこそいとまかふと云る者多抄小新てハ穂屋のすきれみさ山小鑲と云ふさやみ宮なるらハ宗長親王註信濃なるハやの落もあふさき山野のゆへと分る諸人○諏訪郡御射山東方ハヶ嶽の麓也

更科

古今雜上よりふたぐさめかぬつ更科や姨捨山小てる月をりて遺別貫之月氣あふさるるも更科の山の麓ハ長居すた君

上野国註姨捨山註可考

大和物語ハ註依て作りし信濃記曰上古之風俗子官位令註義解云信濃国俗夫死者以婦為殉註公式令註出註姨の殉死を停て山捨註ハ

かざ越山

詞花雜下註為系家經信濃守註下りりる時風越の峯と云々註予我曰夫木小源野神註もつも結ひてゆるん風越の末地の尾花穂小出註新於送雜上註為系乃重風註の峯のふふもさえられて木宮のみ坂を埋む白雪註の木宮のアラキより飯田麻績へ出る山道小風越山ハ伊奈郡註屬神のみ坂ハ此山より南註

曾の原や伏屋里

六帖雜思昔の原や伏屋小生る曾木のみとハ註あはぬ君を新古今旅註為系輔註相臣信濃の坂

兒建御名方神坐信濃国諏方郡神社と云○古事記上十四建御名方神逃去故追往而追到科野国之列羽海○式諏訪郡南方美神社二座○名義出雲国嶋根郡美保神社八御保須々美命と云風土記小出信濃八御名方神と云信濃小て諏訪郡を南郡と云式小南方と書ハ南縣の意之出雲国美保三註宣長曰諏訪小風祝と云五伊勢風土記小神武天皇の御代小伊勢津彦大風を起して信濃国へ移とあるハ伊勢津彦若クハ建御名方神一始ハ伊勢国へ逃去一と云リ

穂や野

續古今秋下文永二年九月十三夜野鹿の野夜密なる小屋ふくむ屋のめぐりの一村小一里ある秋のみさ山○後小穂屋野を地名とす始ハ諏訪神社の齋野の穂屋二みさ山一註○袖中抄信野なるやのすきも風ふけハ一さこ一といたまハ一さみ一者多抄小新て一穂屋のすきれみさ山小鏡一と云一やみ一なる一ら一宗長親王一信濃なるやの一藤も一あ一さ一き一水一宿一の一ゆ一を一分一る一諸一人一○諏訪郡御射山東方ハ一ヶ一嶽一の一麓一と

更科

古今雜上一より一ふ一た一ぐ一さ一め一か一れ一つ一更一科一や一姨一捨一山一小一て一る一月一を一ん一て一遺別貫之月氣一あ一る一も一更一科一の一山一の一標一長一居一す一と一君

姨捨山

後撰卷二一海一り一ん一空一も一あ一る一姨一捨一の一山一より一出一る一月一を一ん一て一ま一ふ一○倭名更級郡更級之一詠一郷一同一地一姨一捨一山一旧一名一冠一嶽一○顯昭袖中抄一姨一を一擱一の一男一の一捨一た一る一と一云一後一頼一之一名一抄一ハ一昔一の一人一姨一を一埋一の一捨一た一る一と一云一先一ハ一冠一山一と一云一冠一の一り一と一似一たり一大和物語ハ一依一て一作一り一信濃記曰一上古一之一風一俗一子一官一位一令一亡一義一解一云一信濃国俗夫死者一以一婦一為一殉一公一式一令一葬一也一姨一の一殉一死一を一停一て一山一捨一り一

かざ越山

詞花雜下一為一家一經一信濃守一て一下一り一る一時一風一越一の一峯一と一云一千載曰夫木小源一神一も一も一結一ひ一て一ゆ一ん一風一越一の一末一地一の一尾一花一穂一小一出一る一新一於一送一雜一上一為一重一風一の一峯一の一ふ一ふ一も一さ一え一ら一れ一て一木一の一み一坂一を一埋一む一白一雪一○木一の一ア一ラ一キ一より一飯一田一麻一績一へ一出一る一山一道一小一風一越一山一を一伊一奈一郡一と一属一神一の一み一坂一ハ一此一山一より一南一と一云一

曾の原や伏屋里

六帖雜思一曾一の一原一や一伏一屋一小一生一る一曾一木一の一み一と一ハ一ア一と一云一あ一ら一ぬ一君一と一云一新一古一今一旅一為一系一輔一尹一相一臣一信一濃一の一み一坂一

のめさあたる結小核人宿して立ありたる所と。立なりつてやむか
明の者の系や伏屋と云もかひなきなり。信濃記曰。伊奈郡浪
合大野阿智等の西小室系を伏屋郷ハ室系の中小室御坂越の
古道と云り。伊奈郡輔衆郷伏屋里と云り。○通道のりハ
倭建命の幸ハ蒜哇阿智等の系御坂越の古道也。續日大宝二
年始開岐蘇山道とあり。此とも通ひ。詔花集小室系家經初
信濃守として下りたる時風越の峯をてり。此時ハ本等の南里
より入て風越を通りたる也。又云南小西内河と云る。今の通流
かれハ一向小室等の河を小ハありたり。故式の沃馬小も
今ハ難知沃家あり

七つりの湯

後於送惠一さぐと。そもせり。小田を流す。此ハヤセ七つりの
出少なるらん。信濃記小筑戸郡と云。伊勢ノも同名也。

宇都志日金折命

古事記上十五阿曇連等者其綿津見神之子宇都志
日金折命之子孫也。○信濃小阿曇郡也。宇都志ハ
宇知と約り。日金ハ式更級郡氷鉦計賣神社。倭名同郡計賣郷氷
鉦比加郷を折ハ佐久郡とて。此郡内小内山城也。氏人住居地名也。

位山

六帖山。衣子の色増り。信濃なる位ノ山ハ君りまふまふ
信濃國と美濃飛驒國接壤。位山ハ今飛驒小属

淺間山

古今俳諧。六帖煙山。伊物於送。金葉新古今。皆煙を後り。佐久郡の
山ハ山。東ハ上野國ノ頂小坑也。廣凡三百歩。坑より考小煙を冬
○天武紀二四十四年四月。灰零於信濃國。草木皆枯焉。と云。其後
煙氣立登り。幾交り。追比目小又つる。天明年七月朔日以後震
動。六日而止。天晴。淺間山火也。上野刀根川。鷲川。熱湯流。火石飛散
て。鄉村を埋め。板鼻。安中。高崎。邊流矢。人馬共死。近武藏下総。水災

木曾の御坂

景行紀前。後撰。二信濃。此ハ本等のみ坂。○續日二。美濃國
なり。今ハ御坂以東ハ信濃也。

木曾の麻衣

新勅雜四寂連。○まその麻衣ハ。春約を異りたり。大きき
小本等。南北行程凡三日。其北ハ筑戸郡也。

木曾の枿

於送。是四源頼光。中。小いひも。た。信濃なる本等の枿の枿の
かけた。の。や。子我雜下。俳諧。お。や。き。の。かけ。の。九
本枿を。する。た。ひ。小。な。め。ひ。き。か。の。今。枿。上。松。と。福。嶋。間。馬。古。の
亦。小。非。云。○。奥。本。等。ハ。御。嶽。の。下。也。小。本。等。ハ。蘇。系。子。元。川。の。お。く。也。

桐原牧

六帖駒引。於逸秋太宰大貳高直。相坂の冥の岩とふとなく山立出る。相原の駒。信濃記筑前郡桐原牧出。式殖原小誤。

小笠原牧

式笠原牧。六帖駒引。都までなつてひく。小笠原三つの水牧の駒。小やろろ。伊奈郡笠原。甲斐も同名を。

もち月の駒

於逸秋貫之。相坂の冥の情ふふ。影をふして今や安らんを月の駒。式望月牧。佐久郡あり。

御射山

玉葉雜一尾花ふく。穂屋のめぐりの一村小志む。里ある秋のみさ山。信濃記小諏訪郡御射山。神戸を。其東ハケ嶽の麓の原を穂屋。野と云。穂屋ハ諏訪社の神事の御狩。小七月廿六日。御射山狩を。玉葉以後ハ穂屋も地名とあり。信濃記ハあり。

信濃國

書紀ハ信濃と記。たれとも古事記ハ耕野と云。野原多き国。よて篠野の意と思へど。信濃記ハ真淵翁曰。古書小耕野とあり。山国よて階坂あるを。国号ハ負之と云。其議ハ耕と云。地名多。埴科倉科穂科御科妻科波用科仁科明科尾科。駿科蓼科佐良志奈等。筑前郡以北の地名よて水の北流。方と耕野と云。その南方へ流る。地ハ伊奈郡よて。曰是ハ美

野の後国なるより前文よ記

野上

上毛野君

崇神改^{十九}豐城入日子命者。上毛野下毛野君等之祖也。○垂仁紀^五上毛野君遠祖八綱田。○景行紀^{五十五}二年二月以彦

狹嶋王拜東山道十五國都督。是豐城命之孫也。葬其王尸於上野國。○曾聞群馬郡惣社村之荒陵是也。○同紀^{五十六}年八月詔御

諸別王曰汝父彦狹嶋王不得向任所而早薨。故汝專領東國云云。由是其子孫於今有東國。○應神紀^七上毛野君祖荒田別巫別。○

神功紀^{十七}荒田別鹿我別。○姓氏錄豐城命四世孫大荒田別。○仁德紀^十上毛野君祖竹葉瀨之弟田道為蝦夷所敗。以死于伊寺水

門。○舒明紀^{十一}九年三月蝦夷叛。即拜上毛野君形名為將軍。○天武紀^二廿^五上毛野君三千卒。万^廿見防人上毛野君駿河同牛其

國造本紀曰。上毛野國造瑞籬朝皇子豐城入彦命孫彦

上毛野國造

狹島命始治東方十二國。○續日^{廿九}神護景雲二年

六月。上野國佐位采女老刀自為本國國造。○毛野國分上下者本紀曰。難波高津御世也。

吾孀國

景行紀^{十八}日本武尊登碓日嶺而東方望之三歎曰。吾孀者耶。故因号山東諸國曰吾孀國。○倭名上野國吾妻。○景行

段^{卅五}倭建命登立足柄坂三歎詔云阿豆麻波夜故号其国謂阿豆麻也又曰譽御火燒之老人即賜東国造

碓日坂 景行紀云日本武尊自甲斐北轉歷武藏上野西逮于碓日坂。倭名上野国碓氷^比須坂^本。此^加。○万十四^{廿一}字須比乃夜

麻^{卅六}比奈久母理字須比乃佐可。○甘示郡碓氷郡吾妻郡西方。信濃国佐久郡也。具原氏以吾妻郡内喫津出湯為信濃。

上毛野坂本君 續日十九^四姓氏錄三。○倭名碓氷郡坂本^{佐加}。

綠野屯倉 安閑紀云二年五月置上毛野国。綠野屯倉。○倭名綠野^{美止}郡。

甘良郡 續日五^卅元明和銅四年三月割上野国甘良郡織裳^{韓級}矢^{美止乃}田^{美止乃}大家。綠野郡武美。片岡郡山等六鄉別置多胡郡。倭名甘樂。

綠野郡 倭名美。片岡郡 碑銘片岡郡。○式邑樂郡 倭名於波良岐。續日廿九^{廿九}。

多胡郡 上野国^{惣社}多胡碑曰弁官符上野国片岡郡綠野郡甘良郡并三郡内。三百所郡成給。○成多胡郡和銅四年三月九日甲寅宣左中弁正五位下多治比真人。大政官二品總績親王左大臣正二位石上^敏。○右大臣正二位藤原。○五字缺六鄉成郡。

織裳 倭名。韓級 加良。矢田 倭名。大家 倭名。武美 山 倭名山奈也。未奈。

池田君 天武紀十三年^{卅九}池田君賜姓曰朝臣。姓氏錄同。倭名上野国那波郡池田^{伊少}。

上野國司 万三^{卅三}田口大夫益人。任上野国司。

新田驛 續日卅一^{卅七}光仁宝龜二年十月東山駢路從上野国新田駢^太。下野国足利駢。此使道也。○倭名新田^太。布郡駢家。

黑髮山 万十一^{卅一}鳥玉黑髮山同七^{卅二}玄髮山。群馬郡伊香保神社也。有黑髮山。

多胡能伊利野 万十四^{卅二}。續日五和銅四年三月置多胡郡。○倭名多胡郡。又有片岡郡内多胡鄉。○伊利野為長野鄉。

可美都氣努安蘇 万十四^{卅二}同。倭名下野国安蘇郡安蘇鄉。

可美都氣乃乎野イ度能多野イ栞里

万十四廿二。傳名上野国緑野郡小野。下野国都賀郡田後郷。足利郡田部乎。

可美都氣野左野

万十四廿二。今下野国。足利佐野相併。

可美都氣努麻具波思麻

万十四廿二。按麻具波思麻。當有上野下野武藏三国。堰刀根川。也。

佐味君

天武紀十三年佐味君。姓氏録四。佐味朝臣。傳名緑野郡佐味。那波郡佐味。有二郷。

尔比多夜麻

万十四廿二。傳名新田郡。新田郷。有新田山城。

伊香保

万十四廿二。伊香保呂尔。安麻又母伊都藝。可奴麻豆又。同廿二。伊香保呂能蘇比乃波里波良。同廿四。伊香保可是。同廿五。伊香保

呂乃蘇比能。和可麻都。式群馬郡伊香保神社。

伊可保乃奴麻

万十四廿三。群馬郡伊香保沼。

可奴麻

万十四廿二。可奴麻。今有下野国鹿沼宿。

可保夜我奴麻

万十四廿三。未考。

祝部

姓氏録廿四。祝部。吳國人之後也。傳名新田郡祝人。波布郷。

伊奈良能奴麻

万十四廿三。未考。

刀祢河

万十四廿三。傳名上野国利根郡。國中諸川合爲刀祢川。河流号。毛野川。東國之大河也。

賀美都家野久路保乃祢呂乃久受兼我多

万十四廿三。按當下野国黒羽城。

佐野乃布奈波之

万十四廿四。可美都氣努佐野乃布奈波之。加美都氣努佐野田。今下野国佐野宿佐野川。原野有。

久良我

万十四廿八。雜歌。思路多倍乃許呂母能素低乎。麻久良我欲安。麻許伎又見由。奈美多都奈由宋。上野国倉个野宿。又有武

藏国久良我。又有下総国古河城。此也。間間田村通武藏国堰栗橋。

麻久良我能許我能和多利

万十四廿三。按當上野国倉我宿。渡刀祢川。通武藏国地理合。

安可見夜麻

万十四廿二。按上野国甘木郡赤城山。有赤城神社。領地五十石。此地妙義山相併。

兒毛知夜麻 万十四丁五 兒毛知夜麻和可加漱流氏能毛美都麻氏宿

中郷村有
兒持山

延喜式上野国馭馬 倭名国府在群馬郡
行程上廿九日下十四日

坂本馭 十五疋 倭名碓氷郡坂本
碓日坂通坂本馭廢牧令曰每三十里置一馭百五十町

○中路之文例坂路
十五疋平地十疋也 野後馭 倭名碓氷郡野後馭家○按自
坂本百五十町餘當安中宿

佐位馭 倭名佐位郡佐井郷於此郷中有久良我之地名○梅
万十四町三丁久良我○佐位馭當倉个野宿通新田馭

新田馭 各十疋 倭名新田郡新田郷太布万十四詠尔比多夜麻○
續日卅一廿七從上野国新田馭達下野国足利馭此使

道也又通武藏国
多磨府也 傳馬 碓氷郡 佐位郡 新田郡 各五疋

式 四十八
左馬寮 御牧 上野国牧

利刈牧 倭名群馬郡
止加利郷 有馬嶋牧 倭名群馬郡
客利萬郷 治尾牧 未考 久野牧

市代牧 大藍牧 拜志牧 新屋牧 倭名甘永郡
新屋郷 塩山牧

追考

いかしの沼 古今長分万十四丁
○式群馬郡伊加保神社 桐生の尾 於遠賀清原元帥始
さ相生の尾小立きトハ千

黒髪山 新千載賀文永元年大嘗會
万十一黒髪山同○群馬郡 代の日つきの始ありりり○上野

等根川 神示云新勒神祇取物六帖川
る物をさして唯一き○利根郡河源五台云等根川溜毛野川

佐野の尾

新後於遠冬、万十四さなづの尾、同地。
○上野の佐野、船橋も同地、今属下野。

佐野の船橋

後於遠冬、雑一、ふこも物思ふ、才とを成よる佐野の船橋
と絶のちりして、万十四上野の佐野の船橋、今属下野。

佐野の渡

新古今冬定家、百そのか奉り、時、助とめて袖打拂、けもちり
佐野の渡、の雪の夕暮、けか、河国の佐野、る知、○万三、みじの

さき佐野の湯、ハ記伊、本能地
のこ、と佐野の海、地

さ池の船橋

後撰志二、源、等、船長、東、以、の、佐、野、の、船、橋、か、け、て、の、こ、思、ひ、は、る、を
知人のなき、後古、今、夏、佐野の船橋、万十四、上野の佐野、今

ハ下野、不足利、下、一、○新、後、古、今、雜、上、僧、都、竟、尋、船、も、も、佐野の
浦、浪、遠、く、月、も、夜、渡、り、淀、の、船、橋、此、方、ハ、上、野、記、伊、等、の、佐、野、も、不、合、

美呂浪神

古事記上冊五、美呂浪神、父、多比理岐志麻豆美神、出雲国、來、
嶋を、負、美呂の地名、出雲、ハ、元、て、倭、名、上、野、佐、位、郡、美、呂、郷、

いる池

万十四、上野国、歌、多胡能伊利野、云、多胡郡、云、玉葉、秋、上、小、
鳥、籠、の、い、る、池、の、意、知、の、こ、と、山、の、元、ち、り、て、鳴、る、志、の、め、千、載、春、

下、野、入、野、の、京、の、つ、り、す、り、表、の、か、つ、り、つ、り、海、を、
後、於、遠、秋、上、後、成、さ、を、麻、の、入、池、の、す、き、云、云、新、後、古、今、雜、上、葛、の、
を、吹、又、風、ふ、う、う、あ、り、て、田、子、の、入、池、ふ、う、う、う、う、○上、野、ハ、
多、胡、郡、と、云、ゆ

入野川

万七、上野国、歌、の上、妹、う、門、出、入、乃、川、の、水、を、早、之、云、云、
け、か、ハ、所、不、定

下野君 崇神改筑豐城入日子命者。上野野君等之祖也。本紀曰：難波高津朝御世，元毛野國分為上下，豐城命四世孫奈

良別，初賜下野國造。○系裔註國号及姓氏。安蘇郡 万十四廿七，屬上野國也。

下野國 天武紀九五年正月，下野國百姓遇凶年，飢之欲賣子而朝不聽。○持統紀四新羅人十四人居于下野國。○續日一野文

武二年七月，下野國獻赤烏。都賀郡 万廿廿九。倭名下野國都賀國府。同三年二月，下野國獻雌黃。

藥師寺 續日十九孝讓天平勝宝六年十一月，大和國藥師寺僧行信，配下野國藥師寺。○同紀卅光仁，宝龜元年八月，道鏡法師

任遣下野國藥師寺別當發遣。寒川郡 万廿廿九。倭名下野國佐無加波

足利歌 續日卅一光仁，宝龜二年十月，東山馭路從上野國新田馭

櫻麻之苧原 万十一廿一櫻麻之苧原之下草，露有者，令明而射去，母者雖知，十二廿二櫻麻之苧原之下草，早生者云云。○仙覺

曰下野國有櫻川。○常陸筑波山下亦有櫻川。足利郡 万廿廿九。倭名下野國阿志加加

之母都家野美可母乃夜麻 万十四廿四之母都家野美可母乃夜麻能，許奈良能須，麻具波思兒呂波，多賀家可

母多年。○美可母式，都賀郡三鴨馭，指大神社之山。○多賀家，倭名都賀郡高家鄉。○歌意，三鴨之山の高き如く此兒者高家と持人之

志母都家努安蘇乃河泊良 万十四廿四。倭名下野安蘇郡安蘇郡

都武賀野 又曰美都我野，万十四廿七。倭名下野國夜奈多

河牟思太 万十四廿七都武賀野，須受我於等伎許由，可牟思太能等能乃奈可知師，登我里須良思母。○都武賀野，下野國都賀郡之

野，可牟思太，三鴨馭也。河内郡 万廿廿九。倭名下野國

左奈都良能乎可 万十四廿九左奈都良能乎可，尔安波麻伎，可奈之伎我古麻波多具等毛，和波素登毛波自。○下野國佐

野之岡也、佐野
足利相併

那須郡 百廿卅丁
○傳名同

多タ抄ド里リ

万十四丁可美都氣乃、予度能多抄里我、可波治尔毛、兒良波
安波奈毛、比等理能未思、或本、可美都氣乃、予野乃多抄

予野

里我、安波治尔母、世奈波安波奈母、美流比登奈思尔、○予度、
予野同、傳名上野国、緑野郡小野、予野郷、○多抄里、田後、傳名上

野国那波郡田後、利多之郷、又下
野国都賀郡田後、山後、小山郷、正考

塩屋郡 百廿卅丁

○傳名之保乃夜

延喜式下野國驛馬

傳名国府在都賀郡
行程上卅四日、下十七日、

足利驛

傳名下野国足利郡、驛家、
○從上野国新田驛、通足利驛

三鴨驛

傳名都賀郡、驛家、
万十四、美可母

田部驛

傳名足利郡田部郷、驛家、

衣川驛

傳名河内郡衣川驛家

新田驛

傳名芳賀郡新田郷

磐上驛

傳名那須郡石上郷

黒川驛

各十足、○傳名那須郡黒川郷、○驛七道二
通陸奥白川、又通會津、正考

傳馬

安蘇郡

都賀郡

芳賀郡

塩屋郡

那須郡

各五

追考

伊吹のさしも草

六帖雜中さしも草、下野や志めちる系のさしも草お
のう思ひ小男をやくらん、後於遠志一實方胡臣かくと

たふえやはいまきのさしも草云、清少納言、下野へもる人小、思ひたふ小
からぬ山のさしも草誰のいぶきの里ハ告しそ、○下野の志めちる系ハ河内郡

武路我夜乃都留能堤

万十四、○傳名下野国足利郡堤田郷を
室の八嶋も此地なり

室のやま

六帖嶋。下野や室の八嶋。小立煙思ひ入るも今こそハ志連。
後撰撰振定家。下野より人小立をひてそれも尺を也。室の八嶋の深き煙を。諸集おる。下野小物社村室八嶋明神其野
中小清水を。水氣立よりて煙の如くときく。是ハ足利の邊。又袖中抄
那須郡室八嶋
と云り。毛ハ疑い

下野や標茅ヶ系

六帖六上。河内郡

二荒山

六帖山下野やふたらの山の二心云。後撰別。下野ハ人小ふたらし山
じもふらえぬ。是ハ湯をア。式下野国河内郡二荒神社

みかしの崎

折々我旅。蓮生法師。石ふまぬあその川。亦不行。あそみかしの
安蘇郷。みかしの三鴨を誤り。
上せのいり。あそ川ハ

陸奥道尻岐閉國造

古事記上冊。天津日子根命。道尻岐閉國造。云祖也。
國造本紀曰。道口岐閉國造。建許呂命。兒宇佐比刀
祢。天津日子根命之後也。道尻。東海道之後。而常陸國也。道口。自常陸入奥
之地。而當石背石城等之國。岐閉。應石背石城等之旧名。今元

道奥石城國造

神武改。神八井身命者。道奥石城國造。常陸仲國
造。云云。祖也。倭名陸奥。乃万十八。美知能
久。磐城。伊波岐。續日八。元正。養老二年五月。割常陸國之石城
標。兼行方。字太直。理菊田六郡。置石城國。

相津

崇神段。大毘古命者。罷行高志國。自東方所遣。建沼河別與
其父大毘古。共遇于相津。故其地。謂相津。崇神紀十年七月。以
大彥命。遣北陸。武滄川別。遣東海。十一年四月。四道將軍。以平戎夷
之狀。奏焉。續日廿九。會津郡人阿倍會津臣。倭名阿比豆

日高見國

景行紀。二十五年七月。遣武內宿禰。令察北陸及東方諸
國之地。同二十七年二月。武內宿禰。自東國還之。奏言。東夷
之中。有日高見國。其人男女。並推結文身。是提日蝦夷。同西十年
十月。日本武尊。東征蝦夷。既平。自日高見國還之。西南歷常陸。至甲

雙國○常陸風土記曰志太郡此地本日高見國○按号日高見者常陸上之地而當志太郡以北陸奥石城石背等之地

陸奥國推古紀廿八三十五年二月陸奥國有蝦夷國拜明紀於五年三月討蝦夷國

東東陸奥蝦夷拜明紀元年七月於難波朝饗北蝦夷九十九人東奥

柵養蝦夷拜明紀元年七月授柵養蝦夷九人津刈蝦夷六人冠

津輕同刈蝦夷授柵養蝦夷二人位一階授津輕郡大領馬武大乙上小

留次麓蝦夷近熱蝦夷○柵養今元津刈都加留○持統紀時陸奥國優嗜墨郡城養蝦夷諸剔鬚髮為沙門○浮田郡後名宇多

都岐沙羅柵拜明紀四年七月授都岐沙羅柵造位二階

膽振鉏蝦夷拜明紀於膽振鉏二十人大饗賜祿膽振鉏此云伊浮梨

シリヘシ今有松前以北之夷地

肉入籠拜明紀九年三月遣阿倍臣率船師一百八十艘討蝦夷

問菟蝦夷一人津輕郡蝦夷一百十二人其虜四人膽振鉏蝦夷二

後方羊蹄政所地神至肉入籠時問菟蝦夷膽鹿嶋菟穗各二人進曰可

○肉入籠此云之之梨姑○問菟此云塗毗宇○菟穗名此云宇保那○後方羊蹄此云斯梨敵之○其地不知シリヘシ松前之北方有シリヘツ山又云シリヘシ○此外飽田淳代邑良志別須賀君香阿村開村等註出羽

陸奥蝦夷貢方物續日一

陸奥治金續日二文武大宅元年三月遣九海宿祢鹿鏡子陸奥

陸奥国始貢黄金

續日十七^廿聖武天平二十一年二月陸奥国始
貢黄金^〇同^{十五}陸奥此大倭国者天地開闢以來亦
黄金^波人^用理^獻言^波有^登母^斯地^者無^物止^念部^流亦^開食^國
中能^東方^陸奥^國云^云小^田郡^仁黄金^在奏^氏獻^此〇^同建^四月
陸奥守貢黄金九百兩〇万葉十八^丁小田郡金花山之歌下註

信太郡

續日三^{廿六}文武慶雲四年五月陸奥国信太郡生王^玉五百足賜
衣及穀〇倭名志太郡信太鄉又有玉造郡信太鄉

丹取郡

續日六^丁元明和銅六年十二月新建陸奥国丹取郡〇同紀
十^丁聖武神龜五年四月改丹取軍團為玉造團〇倭名元丹

取郡而有玉造
訓太萬豆久里

石城國

續日八^丁養老二年五月割常陸国之石城標葉行方字太豆
理菊田六郡置石城國〇同^廿養老三年七月石城國始置
家一十處〇同^{廿九}神護景雲三年見磐城郡人於保磐城臣〇
按月石城郡關田村北方近亘理郡坂今道四十里^十置^一

十^〇紀老合而馭名无記物式之
馭馬者白川郡以北之官道也

石背國

續日八^丁養老二年五月
五郡置石背國割常陸国
郡屬石背國焉〇同^{廿九}神
人上賜磐瀨朝臣〇倭名伊波^世國^分為^伊波^郡
行程記常陸國
因田上田渡部舟尾湯本
若城平与倉久濱本戶富岡
熊川中津高屋^高原^所安積信夫
廣島相馬^馬黑木^駒奉^新地^地名曰菊多
坂本^山下^直於^{廿二}人^許彌^侯部

菊多郡

續日八^丁養老二年五月割常陸国多珂郡之鄉二百一十烟
名曰菊多郡屬石背國焉〇倭名本久多

標葉郡

續日八^丁廿九^{廿六}
〇倭名標葉^波郡

行方郡

續日八^丁廿九^{廿六}
〇倭名行方^加多^郡

字太郡

續日八^丁廿八^{廿一}高野神護景雲元年六月陸奥国字多郡人
吉弥侯部石麻呂賜陸奥公〇倭名字多^太郡

亘理郡

續日八^丁常陸国之石城標葉行方字太亘理菊田六郡置石
城國〇亘理之北方有安福麻河式亘理郡安福麻河伯神社
按安福麻河以南上古号日高見國謂常陸上國也續日廿^丁陸奥
國大國造者此地之宰乎

陸奥国始貢黃金

續日十七^廿聖武天平二十一年二月陸奥国始貢黃金○同^{十五}陸奥此大倭国者天地開闢以來^亦黃金^{波人}国^{用理}獻言^{波有}登^母斯地^者無物^止念^部流^亦開^食国中能^{東方}陸奥国云云小田郡仁黃金在^十奏^臣獻^此○同^{廿三}四月陸奥守貢黃金九百兩○万葉十八^廿小田郡金花山之歌^{下註}

信太郡

續日三^廿文武慶雲四年五月陸奥国信太郡生王^{玉力}五百足賜衣及穀○倭名志太郡信太鄉又有玉造郡信太鄉

丹取郡

續日六^廿元明和銅六年十二月新建陸奥国丹取郡○同紀十^廿聖武神龜五年四月改丹取軍團為玉造團○倭名元丹

取郡而有玉造訓太萬豆久里

石城國

續日八^廿養老二年五月割常陸国之石城標葉行方字太豆理菊田六郡置石城國○同^{十一}養老三年七月石城國始置馭家一十處○同^{廿九}神護景雲三年見磐城郡人於保磐城臣○按石城郡關田村北方近亘理郡塚今道四十里^十置一

十^廿老合而馭名无記物式之馭馬者白川郡以^七古道也

石背國

續日八^廿五郡置^月割常陸国白河石背會津安積信夫多珂郡之鄉二百一十烟名曰菊多

郡属石背人上^湯

菊多郡

割常陸国多珂郡之鄉二百一十烟上焉○倭名木久多

標葉郡

續日八^廿廿九^{廿六}行方郡^{加多}郡

字太郡

續日八^廿廿八^{廿一}高野神護景雲元年六月陸奥国字多郡人吉弥侯部石麻呂賜陸奥公○倭名字多^太郡

亘理郡

續日八^廿常陸国之石城標葉行方字太亘理菊田六郡置石城國○亘理之北方有安福麻河式亘理郡安福麻河伯神社按安福麻河以南上古号日高見国謂常陸上国也續日廿^六陸奥国大國造者此地之宰乎

陸奥國大國造

續日廿八。慶雲元年十二月。道嶋宿祢嶋足。為陸奥國大國造。道嶋宿祢三嶋。為國造。

白河國造

國造本紀曰。白河國造伊乃。已自。續日廿九。神護景雲二年十二月。陸奥國白河郡人。文部。小老。賜阿部陸奥臣。

白河軍團。丹取軍團。玉作團。

續日十。行聖武神龜五年四月。陸奥國請新置白河軍團。又改。

丹取軍團。為玉作團。并許之。倭名白河郡。加波國。分為高野郡。今分為大沼河沼二郡。丹取。為玉造。大萬里。

磐城山

萬十二。磐城山。直越來益。磯崎。許奴美乃濱。爾。吾立。將待。磯崎。許奴美乃濱。有常陸國鹿嶋郡。磐城山。陸奥乎。乃。

安比豆祢

萬十四。安比豆祢。能久。尔。乎。伍。掃。抱。美。安。波。奈。波。婆。斯。努。比。尔。勢。牟。等。比。毛。牟。須。婆。左。祢。倭名會津郡。

安積香山

萬十六。安積香山。影。副。所。見。倭名安積郡。安積鄉。會津湖。東方。有安積郡。安積沼。第八。朝。香山。安積。

陸奥之吾田多良真弓

萬七。陸奥之。吾田多良真弓。著。而。引。者。香。人。之。吾。乎。事。將。成。按。吾。田。改。安。達。

乎。吾。今。大。歌。陸。奥。之。安。達。之。真。弓。我。比。加。婆。末。佐。敵。利。古。忍。之。尔。於。達。戀。四。陸。奥。之。安。達。之。原。之。白。真。弓。云。云。

安太多良乃祢

萬十四。安太多良乃祢。郡。峯。越。馱。家。式。馱。馬。峯。越。同。倭名陸奥國。安達郡。安達。

字漢迷公字屈波字

續日三十。室。龜。元。年。八。月。蝦。夷。字。漢。迷。公。字。屈。波。字。等。忽。率。徒。族。逃。還。俗。地。字。漢。迷。字。屈。

波。字。共。地。名。與。郡。北。海。邊。有。興。戶。村。也。是。本。居。乎。又。聞。伊。達。郡。川。俣。村。與。列。大。道。之。碑。地。山。寺。之。開。基。夷。三。品。字。漢。迷。君。才。少。少。開。此。地。故。為。山。寺。之。開。基。於。門。前。生。綾。篠。為。字。漢。迷。君。之。遺。產。又。於。寺。中。有。古。井。為。夷。三。品。之。遺。物。其。綾。篠。一。又。栗。原。郡。有。小。細。木。村。光。明。佛。寺。

安積郡

續日廿九。倭名阿佐如。

信夫郡

倭名伊達郡。倭名志乃。

名取以南一十四郡

續日廿八。延。曆。四。年。四。月。陸。奥。按。察。使。鎮。守。將。軍。大。伴。宿。祢。家。持。等。言。各。取。以。南。一。十。四。郡。僻。在。

山海。去。塞。懸。遠。屬。有。徵。發。不。會。機。急。權。置。多。賀。階。上。二。郡。許。柴。田。一。十。四。郡。若。蓋。名。取。巨。理。字。多。行。方。標。兼。石。城。石。背。菊。多。柴。田。

刈田 信夫安達安積白川郡子。○多賀階上二郡。早廢而倭名元宮城郡多賀耕上二鄉。今階上村在

陸奥之真野乃草原

見云物予。○倭名陸奥行方郡真野鄉。○此者笠郎女贈大伴宿祢家持歌也。續日廿八丁延曆四年四月

名取公

見陸奥按察使鎮守將軍大伴宿祢家持等言。於是笠郎女贈歌予。續日廿七丁天平神護二年十二月。陸奥国人名取公龍麻呂。賜姓名取朝臣。○同廿九丁各取郡人吉弥侯信老人等賜名取朝臣。○倭名奈止里郡各取鄉各取川。

柴田郡新田郡

續日八丁元正養老五年十月。割柴田郡置新田郡。○倭名柴田之波刈田太葛。

陸奥鎮守將軍從四位下大野朝臣東人

續日十丁聖武天平元年九月。東人云云。

田夷村蝦夷

續日十丁天平二年正月。陸奥国言部下田夷村蝦夷等永悛賊心。既從教諭。請建郡家于田夷村。同為百姓。

許之。○田夷村未考

多賀柵

倭名宮城郡多賀鄉

續日十二丁聖武天平九年正月。陸奥按察使大野朝臣東人等言。從陸奥国達出羽柵道。經男勝行程迂遠。請征男勝村。以通直路。於是詔持節大

玉造柵

倭名玉造郡改丹取為玉造園

使云云。發遣陸奥国。○同九年四月十五陸奥持節大使藤原朝臣麻呂等言。以去二月十九日到陸奥国多賀柵。與鎮守將軍從四位上大野朝臣東

新田柵

倭名新田郡迹比太

人共平章。追常陸上総下総武藏上野下野等六国騎兵惣一十人。開山海兩道云云。差田夷遠田

牡鹿柵

倭名牡鹿郡平志加

郡領遠田君雄人。遣海道差歸服狄和我。君計安

色麻柵

倭名色麻郡志加萬

壘。遣山道。並以使旨慰諭。鎮撫之。仍抽勇健四百

以上五柵

五十九人。分配玉造等五柵。○山海兩道。出羽国

遠田郡遠田君雄人

續日十二丁上文同。○倭名遠田郡止保太

和我君計安壘

讀日十二廿五上文同。和我與郡夷地名。岩崎花卷之中間有和我川。衣川合。東南流。

多賀城

宮城郡多賀柵同。多賀城碑銘曰。去京一千五百里。去坂夷國坂一百廿里。去常陸國坂四百十二里。去下野國坂二百

七十里。去靺鞨國坂三千里。此城神龜元年。歲次甲子。按察使兼鎮守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所置也。天平室字六年

歲次壬寅。參議東海東山第度使從四位上仁部省御兼按察使鎮守將軍藤原惠美朝臣朝猶終造也。天平室字六年十二月一日。

○按置此碑者。續日十九廿考。諡天皇天平勝室六年二月。勅南嶋。輝之例也。○續日廿九。桓武延曆七年三月。軍糧三萬五千餘斛。運

收多賀城。

賀美郡

續日十二廿六天平九年四月。將軍東人新開通道。自賀美郡至出羽國最上郡玉野八十里。○按通出羽國新庄延。漢越乎。

黑川郡

續日十四廿九聖武天平十四年正月。陸奧國言。部下黑川郡以北十一郡。兩赤雪。○同紀卅九。室龜元年四月。陸奧國黑川賀

美等一十郡。俘囚三千九百廿人言。已等カ父祖。本是王氏。而為夷所畧。遂成賤隸。云云。伏願除俘囚之名。輸調庸之貢。許之。○類聚三代拾日。大同五年。大政官府曰。黑川以北。與郡。○倭名黑川加久呂。

小田郡貢黃金

續日十七廿四聖武天平二十一年二月。陸奧國始貢黃金。其宣命曰。陸奧國云。小田郡仁黃金在。奏獻

此云云。陸奧國者。免三年調庸。小田郡者。永免。又授出金山神社。小田郡日下部深淵。外少初位下。○武小田郡黃金山神社。

○萬十八廿一賀陸奧國出金。詔書歌。大伴宿禰家持。長歌曰。美知能久乃。小田在山。尔金有等。麻宇之多。麻敝禮。云云。○短歌曰。須賣呂

伎能。御代佐可延年等。阿頭麻奈流。美知能久夜麻尔。金花佐久。○小田郡金花山是也。自仙臺卯辰方。今道十三里。羊在海邊。

北鹿郡北鹿連

續日十九廿三考。諡天平勝室五年六月。陸奧國北鹿郡人牛麻呂。賜北鹿連。○同卅四。神護景雲三年十

一月。陸奧國北鹿郡。俘囚少初位上勳七等大伴部押人言。押人等。本是紀伊國名草郡片里人也。昔者先祖。大伴部征夷之時。到於

小田郡嶋田村而居焉其後子孫為夷被虜歷代為俘云云。望諸除
俘囚名為調庸民許之。○倭名牡鹿加字志

新田郡 續日廿九廿六
○倭名迹比太

桃生郡 續日卅一廿八光仁寶龜二年陸奥國桃生郡人牡鹿連猪手賜
姓道嶋宿禰。○倭名毛年乃不

美知能陸又乃可與刀香取利之能久乃可刀利乎登女乃由比思比乞等久。○式牡

鹿郡香取神社。栗原郡香取神社。

栗原郡伊治城 續日廿八廿一景雲元年十月陸奥國伊治城作了。自始
至畢不滿三旬。同廿三十一月置栗原郡。本是伊治城也。

○同廿九丁淨宥倭名百姓二千五百餘人置陸奥國伊治村。
○倭名長岡郡有瀨城鄉。續日卅六廿上治郡廢。

遠山村 續日卅三丁寶龜三年十月陸奥國遠山村者地之險阻夷俘
所馮也。云云。大伴宿禰駿河麻呂等直進擊之覆其巢穴。

覺カ、驚ベ魚城 續日卅六丁寶龜十一年二月宜造覺驚城得石膽沢沃之地。○
覺驚城未考。○膽沃郡名式馭家格一之関也。上悉鄉在

膽沃イ沃サ 續日卅六丁覺驚城地。○倭名膽澤郡伊波。○日本後紀五延曆
廿二年正月大宿禰田村乃呂造膽沃城。

長岡 續日卅六丁陸奥國言賊入長岡燒百姓家。
○倭名長岡郡長岡鄉。又有瀨城鄉。前文栗原郡伊治城是乎

巢伏村 夷地 續日四十丁延曆八年六月征東將軍奏。衣川三軍同謀
並力渡河討賊云云。比至賊師夷阿互流為之。君云云。官

子波 未考 軍至巢伏村將與前軍合勢惣燒亡賊居十四村宅八百
許煙云云。征東將軍奏曰膽沃之地賊奴與區子波和我

和我 前文和我 倭名和我川 僻カ在深興從玉造塞至衣川營四日輜重受納二箇日然
則往還十日從衣川至子波地行程假令六日輜重往還

衣川營 警井郡 十四日從玉造至子波地往還二十四日程。○子波未考
標葉郡異也。文面亦難解。

玉造塞 前文玉造柵出。○倭名 夷阿互流 衣川以北之賊名
玉造郡太萬豆久里 未知

陸奥夷俘伊佐西古諸紋八十嶋乙代

續日卅六丁十一光仁天應元年六月栗原郡伊治城

之陣伊佐西古諸紋八十嶋乙代等賊中之首一以當千〇夷賊之名无所考

陸奥蝦夷邑良志別君宇蘇弥奈

續日七丁須賀君古麻比留地名

閑村郡家

續日七丁蝦夷須賀君古麻比留等言先祖以來貢獻昆布常採此地年時不闕今因府部下相去道遠請於閑村便建郡家

〇須賀津輕出羽出昆布之地〇閑村今於南部号閑伊郡有一之戸二之所

延喜式陸奥國驛馬

倭名國府在宮城郡鎮守府在膽沢郡行程上五十日下二十五日

雄野驛

倭名白河郡小野驛家〇驛馬十疋從下野國黑川驛通小野驛家

松田驛

倭名白河郡松田鄉

磐瀨驛

倭名磐瀨郡磐瀨

葦屋驛

倭名安積郡葦屋

安達驛

倭名安達郡

湯日驛

安達郡湯石町宿子

岑越驛

倭名安達郡岑越驛家

伊達驛

倭名安達郡伊達鄉

薦借驛

倭名刈田郡薦借鄉

柴田驛

倭名柴田郡柴田鄉

小野驛

各十疋〇倭名柴田郡小野驛家

上件一十一驛從白河郡雄野驛通宮城郡府所謂每三十里置一驛其一里當今量五町

名取驛

以下五疋〇倭名各取郡各取驛家

玉前驛

倭名各取郡玉前

栖屋驛

倭名宮城郡栖屋鄉

黑川驛

倭名黑川郡驛家

色麻驛

倭名色麻郡色麻之加

玉造驛

倭名玉造郡玉造鄉字不考

栗原驛

倭名栗原郡栗原鄉

磐井驛

倭名磐井郡磐井鄉

白鳥驛

倭名膽沢郡白鳥驛家

膽沢驛

倭名膽沢郡

磐基驛

各五疋

〇倭名磐井郡磐井驛本驛家相併驛次如有前後古書二行

相併下行〇上件各取以下磐基以上一十一驛〇按從各取北方通衣川和我川到夷地堰其間八驛又從宮城之府西方到出羽國

堰其間三駄各五正小路之例 **長右駄** **高野駄** 各二正○俵名白河郡高野郷會津郡

長江郷○按 **傳馬** **白河郡** **安積郡** **信夫郡**
通出羽国字

刈田郡 **柴田郡** **宮城郡** 各五正○按自白河通宮城之府

追考

磐城山 万十二冊九 磐城山直越來ませ磯崎のこぬとの傍ふりしま
たふ新築古今猿定家酌ちつむ磐木の山をこえりて人も

こぬとの傍ふりしぬとの傍磯崎ハ岩陸国鹿嶋郡なり
磐城山ハ岩陸ノ元陸奥磐城の山ヨリ岩陸堰ウウ考

葛 **つなの橋** 十我志二陸奥のつなの橋ふりつなの不絶も人よりい
はる哉新於送雜中東海のつなの橋の云云折後於送雜上

たうとへと細の橋小云折後古今志五貞和二年百首がのつかり

山谷の橋ハ絶橋ハつな **利** **ご府** 新古今猿橋為仲陸奥国小侍の時人もじふの浦風奇せぬ小
難免すめる秋の夜の月○俵名陸奥国府在宮城郡今云利府鎮守府異

壺の石碑 折古今雅下右大將頼朝陸奥のいそて思ふハえを考ぬ書冬
てよ壺の石○宮城郡多賀城之碑壺地名鎮守府膽沢郡

あかの塩竈 六帖塩竈○宮城郡塩竈の浦

おころ湯みのこし 古今陸奥おころ湯とのこしまの人なるふ都のつじ
小いといとまりと○黒川郡式黒川駅モウウ考

絶の橋 後於志志三道雅陸奥のを田江の橋や是なるんあこみかすすて
んまといす後後撰定家白玉の緒絶の橋○小田郡の江の橋ウ未考

名取川 古今志三各取川セとの埋木取○宮城郡名取郷名取川

玉川 六帖川陸奥小ると云なる玉川の云云○俵名各取郡玉前郷ハ野田の
玉川同地ウ万十四武藏国多磨郡小も玉川云○紀伊ハ高野もも

たけ隈の松

於送別後系為頼、陸奥守よして下り侍る時、武隈の松を
播為仲、陸奥の任をたて、より侍る時、武隈の松のつもとあて、あつへ
おハ海りぬたけまのまつと、誰小告よとる思ふ、後撰雜三系系元
湖長、陸奥小退り下りる小武隈の松の枯て侍るを以て小松を植
つうせして任をたて、後、又同小松をまうり侍りて、先の任小植一松を以て、
植一時契りやあつ、武隈の松を再ひあひ見つるを、後於送雜四播季
通陸奥小下りて、武隈の松ハ二木を都人いふと、さうくみまこと答へん、
同部能因法師、陸奥小二度下りて後の度、武隈の松も侍るさうく、小武隈
の松ハ此度迄も元十年を距てやあつ、あつらへ、名取郡小武隈松今も

袖の渡り

折後於送系一、陸奥の袖の渡りの洞川、未考袖の湊ハ筑前博多よ
る、後於送系一、同じハ、船毎もよりならん、知人も元袖の湊小と

うる川

於送雜下、各小川、黒くも、すうる川、さすう小渡の水を
ぬるめり、地名例元、按陸奥国黒川を云う、又湊沢宿も

野田の玉川

折古今冬能因、冬ハ塩風、陸奥の野田の玉川、今仙臺東海末、松山玉川併
冬、後於送雜上、陸奥の野田の玉川、今仙臺東海末、松山玉川併

黒塚

於送雜下、兼盛、陸奥名取郡黒塚と云所小重之、いも人あま、こを、
陸奥の安達ヶ系、の黒塚小鬼こも、つと云ハ、滅り、今安達郡東ハ黒塚を

松浦嶋

折勅系四、松浦嶋ハ陸奥仙臺東海阿福麻川北小松浦嶋末の松山玉川
多賀城跡塩竈と併、〇万十四松浦ハ遠江豊田郡松浦小池村の旧名

松嶋

六帖嶋、陸奥小と云なる、松嶋の待小久、くじりぬ君も
〇陸奥仙臺東海松嶋、古書小ハ、えす

松嶋やどまり

後於送系四、源重之、松嶋やどまり、あまの神、こを
かくハ、ぬれ、〇折勅春上、〇宮城郡松嶋上

離の松

古今陸奥、〇宮城郡千賀の塩竈の中、小離の松、こを

衣の関

後撰雜二、た、ちとも、松嶋、衣の関、も、こを、
撰冬、須徳院、風、さゆる、夜、の、衣、の、関、守、ハ、ぬ、れ、ぬ、ま、す、の、月、や、ん、ら、む、

折、後、古今、系一、陸奥の衣の関、人、た、ぬ、ぬ、関、を、こ、れ、う、た、も、と、ハ、
〇磐井郡衣川、今、二、三、の、関、有、り、

衣川

於送系二、袂よりなる、洞ハ陸奥の衣川、こを、云へ、う、る、後、後、於、送、雜、上、
清、系、元、傳、の、云、云、〇、磐、井、郡、衣、川、

安積山 アサカ 古今序あさか山

浅りの沼 古今志四・陸奥のあさかの沼の花うらみ

あふ隈川 古今陸奥志・阿福麻小舟立ゆりゆめとも。風俗志安武久麻。六帖川・もとのくのあふくま川。式直理郡阿福麻神社。玉葉志一、

須、つゝもすすれすゑんかしまたる。あふくま川のあふせありや。會津山 六帖山 會津郡

安達ヶ原 於送志四・陸奥の足達ヶ原の白真弓。後於送志四・陸奥のあさかの真弓未終ふあさぬ方よも引心くま。風俗志越方曲阿太

十乃波良。古今大志。あさかの真弓。後於送志上・足達の約。○安達郡・黒塚も此所あり

あねえの松 伊物・栗原のあねえの松。○伊物・栗原郡。今も栗原郡にあねえの松を衣川道。

あふの松系 金葉志下・みちのくの思ひ信夫ふるまう。今もあふの松系。○是、阿武隈の松を思ひ多し。又凡雅志二小播広のあふの松系あり

さハこのみゆ 於送物名・サハコノミユ。あかす。別一人の住里ハさハこのみゆの山にあたり。○陸奥よりとて未考

すすれむの山 六帖山・陸奥の阿福廣川のあさか山。人よりすすれむの山ハささしき。未考

陸奥の信夫もち摺 古今志四。陸奥の安達の真弓。○安達郡

志のぶ山 六帖山・志のぶ山。通ふたも。宮城野 古今志四・志のぶ山。宮城郡

塩竈の浦 古今哀傷・君まをて塩竈。塩竈の浦。○宮城郡。千賀浦

白川の冥 古今陸奥志・寂連・白川冥。於送志・夕暮ハ衣手をき。松風ハ初やこえん。白川の冥・玉葉志。こえ名ても初末遠。志のぶの奥といふ。白川冥。○白川郡

末の松山 古今陸奥志・君をかき。あさか山をとりもたを末の松山。浪もこえん。序ハ松山の浪をかり。風俗志須惠乃末門也。末。○宮城郡・玉川併

陸奥のふの細布 六帖布・陸奥のふの細布。のむせむ。あひか。き。もする哉。後於送志一。能因・錦木ハたてなう。こ。朽小

これけふの細布。あひか。新千載志三。正三位隆教。文保百首中いへむ。えふこが。むねのあて。の。思ひく。せる。ふの細布。新於送志二。

伏見院寄布意の多しふるの細布と云ふ。○奥南部七戸野辺地東狹布、里之細布、今无。錦木も古凡俗に千載云二。錦木のち東小限りなり。世に程よりすまふ立まり物をと云り、今云錦木塚ハ非也。

鷲座 楯座 楯石沢 大菅屋 柙沢

徒、經畧鷲座楯座楯石沢大菅屋柙沢等五道斬木塞徑云云。○此五等夷地名而今不傳

續日卅六廿三室龜十一年十月、征東使奏言、蝦夷有

出羽 蝦夷國 飽田 淳代 二郡 齊明紀於五年三月遣阿倍臣討蝦夷國飽田

齧田 浦 齊明紀四年四月阿倍臣率船師一百八十艘伐蝦夷齧田

秋田 荷進而誓曰若為官軍以儲弓矢齧田浦神知矣云云仍授恩

齧田同 夷等大饗而歸○同於五年三月阿倍臣率船師一百八十艘

野代同 討蝦夷國飽田淳代二郡蝦夷二百四十一人其虜三十一人

夷戶口与虜戶口○續日卅一廿光仁室龜二年六月渤海使著出

羽國賊地野代湊○飽田齧田秋田同倭名秋田有城太城地今云

久保田倭名出羽郡大窪郷窪田湊也○淳代山本郡野代川入海

出羽國

續日四十五元明和銅元年九月越後國言新建出羽郡許之○

國最上置賜二郡隸出羽國。○同紀六十一和銅七年二月始令出羽國養蚕。○同註靈龜元年正月陸奧出羽蝦夷各貢方物。○同紀八十三元正養老五年八月以出羽隸陸奧按察使。○同紀九十五養老七年九月出羽國司多治比真人家主始出。○姓氏錄六出庭臣。○倭名出羽波伊天。

出羽蝦夷

續日六十五元明靈龜元年正月出羽蝦夷貢方物。○按飽田淳代等蝦夷字。

邑良志別君宇蘇弥奈

續日七十九元正靈龜元年十月陸奧蝦夷第

蝦夷須賀君古麻比留

三等邑良志別君宇蘇弥奈等言請於香阿村造建郡家為編戶民。又蝦夷須賀君古麻比留等言先祖以來貢獻昆布常採此地。年時不闕今國府部下相去道遠云云請於閑村便建郡家云云許之。○邑良志邑知倭名

香阿村郡家

平鹿郡邑知鄉河邊郡邑知鄉是乎。○香阿村為河邊郡川合鄉字。○須賀君津輕出羽之蝦夷出昆布

閑村郡家

之地。○閑村郡家其地不知今於南部。○號閑伊郡有一之所二之所。

出羽柵

續日六十三和銅七年十月初割尾張上野信濃越後等國民二百戶配出羽柵戶。○同紀七十五靈龜二年九月建出羽國已經數年吏民少稀狄徒未馴云云因以陸奧置賜最上二郡及信濃上野越前越後四國百姓各百戶隸出羽國。○同紀八十一聖武天平五年十二月出羽柵遷置於秋田村高清水岡。又於雄勝村建郡居民焉。○柵籬謂城也。倭名秋田有城。

秋田村高清水岡

續日十一十一出羽柵遷置於秋田村高清水岡。○倭名秋田郡高泉鄉今戶嶋村之河源也。

雄勝村

續日七十九元正靈龜元年正月陸奧按察使大野朝臣東人等言從陸奧國達出羽柵道經男勝行程迂遠請征男勝村以通直路云云於是詔持節大使發遣陸奧國。○同註陸奧持節大使與鎮守將軍大野朝臣東人共平章開山海二道。○茲將軍東人新開通直惣一百六十里從陸奧賀美郡至出羽國最上郡玉野八十里從玉野至比羅保許山八十

里地勢平坦無有危嶺。狄俘等曰：從比羅保許山至雄勝村五十餘里，其間平，唯有兩河，每至水漲，並用船渡。

○出羽柵田地不知。○近置秋田村，高清水岡，倭名秋田郡高泉鄉。而今秋田城北七八里有高清水古城。○雄勝村倭名雄勝郡雄勝鄉，石城謂之谷，合其地今不詳。霍ヶ岡九岡等地乎。○日本後紀五延曆廿二年，麻呂造雄勝城。

最上郡玉野

上文續日十二，其東人新開通，從賀美郡至出羽國最上郡玉野八十里，山野形勢險阻。○玉野今不知，按道程，從陸奥國賀美郡至出羽國延沢越之山道乎。

比羅保許山

上文續日十二，其從最上郡玉野至賊地比羅保許山八十里，地勢平坦，從比羅保許山至雄勝村五十餘里，其間平，唯有兩河，每至水漲，並用船渡。○比羅保許山今不知，按秋田郡有國見山，矢立山，若是等乎，兩河秋田川、野代川，用船渡。

大室駅

續日十二，其從陸奥國色麻柵發，即日到出羽國大室駅。○同廿六，其出羽國大室塞等，亦是賊之要害也。大室柵田今大館乎

出羽國守

續日十二，其出羽國守田史，難破。

秋田城

續日廿六，其室龜十一年八月，出羽國言，狄志良須，俘囚字奈古等，歎曰：今此秋田城，遂永所棄，歎為蕃，依舊還保乎者，下報曰：夫秋田城者，前代將相僉議所建也，御敵保民，又經歲序，一旦舉而棄之，甚非善計也。云云。○按秋田郡高清水城也。

由理柵

續日廿六，其由理柵者，賊之要害，兼秋田之道。○象形也，由理郡而其北方有秋田城，倭名由理元式，馭焉，有由理駅。

雄勝城

日本後紀五，延曆廿二年正月，大宿祢田村麻呂造，出羽國雄勝城，地未考。

延喜式出羽国馭馬。倭名国府在平鹿郡。行程上四十七日。下廿四日。

最上馭 十五疋。倭名最上郡最上郷。格。村山馭 倭名最上郡村山郷。村山郡村山郷。

野後馭 各十疋。倭馬三。未考。避翼馭 十二疋。六。未考。佐藝馭 四疋。船十隻。○當本庄松崎渡。

遊佐馭 十疋。倭名飽海。郡遊佐郷。蚌方馭 今有象形海。由理馭 各十二疋。○今由理郡。

白谷馭 七疋。五。未考。飽海馭 十疋。倭名飽海郡飽海郷。今屬海。也。而吹浦塩越等飽海郡中也。

秋田馭 各十疋。倭名秋田郡。以北津輕之地。

傳馬 最上郡 五疋。野後 三疋。船五隻。由理 六疋。倭名由理郡无。

避翼 一疋。船六隻。白谷 三疋。船五隻。○郡堰古今不同。旧名亦不傳。无所考。

追考

出羽なるあまの川の清田川。六帖国。最上郡清川。未考。

最上川 古今陸奥もかまの川の別れは下るいな船のいなふはあまの此月計。○いな船は稲魂の船。羽黒社。物忌社等。祭神倉稲魂神ときけり。

きさ沼 後於送旅能因法師。出羽国小まうりて。きさ沼と云所。新古今。世中八かくても。強りきさ方のあまの若屋を宿りて。新古今。

旅能仲。さすうさるさるさる。あれはきさ方やあまの若屋。あまの若屋。ぬぬ。きさ方の入海。飽海郡塩越村の入海。○式馭馬小蚌方馭。古書。小八及の受。又風景の考も。



